

◆読谷村自治会振興基礎調査アンケート調査概要

【調査の概要】

○調査時期：平成 26 年 11 月 15 日～12 月 5 日まで

○配布・回収方法：郵送配布・回収

○アンケート配布件数：2,000 件（無作為抽出）

○アンケート回収件数及び回収率：640 件（32.0%）

◆読谷村自治会振興基礎調査アンケート集計結果

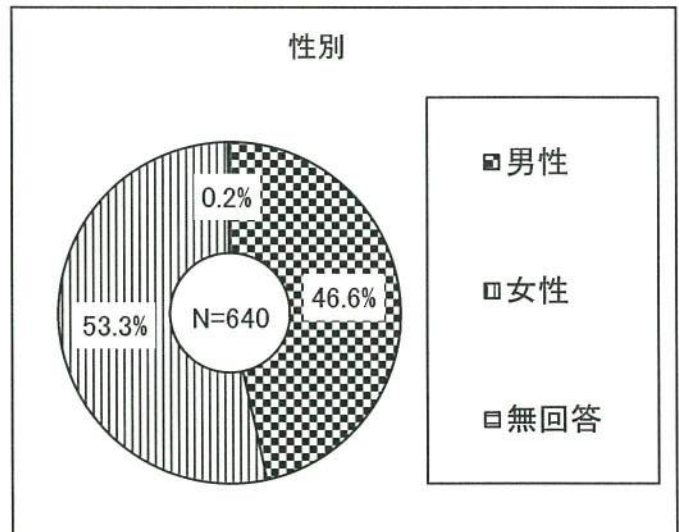
【1. 回答者の属性】

問1：性別

回答者の性別は、「男性」46.6%、「女性」53.3%と若干「女性」が上回っているものの、男女比に大きな差はない。

回答者の性別 単位：件、%

	件	%
男性	298	46.6%
女性	341	53.3%
無回答	1	0.2%
合計	640	100.0%



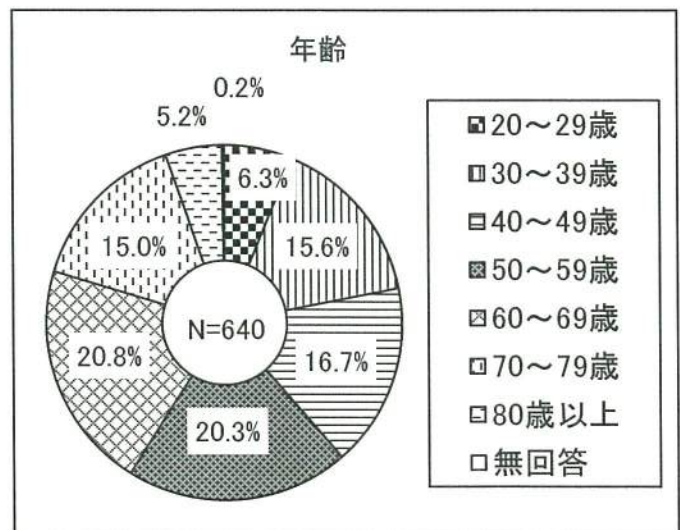
問2：年齢

回答者の年齢は、「60～69歳」が20.8%で最も多く、次いで「50～59歳」20.3%、「40～49歳」16.7%、「30～39歳」15.6%、「70～79歳」15.0%、「20～29歳」6.3%、「80歳以上」5.2%の順となっている。

30代から70代の世代にかけてバランスの取れた世代からの回答が得られている。

回答者の年齢 単位：件、%

	件	%
20～29歳	40	6.3%
30～39歳	100	15.6%
40～49歳	107	16.7%
50～59歳	130	20.3%
60～69歳	133	20.8%
70～79歳	96	15.0%
80歳以上	33	5.2%
無回答	1	0.2%
合計	640	100.0%

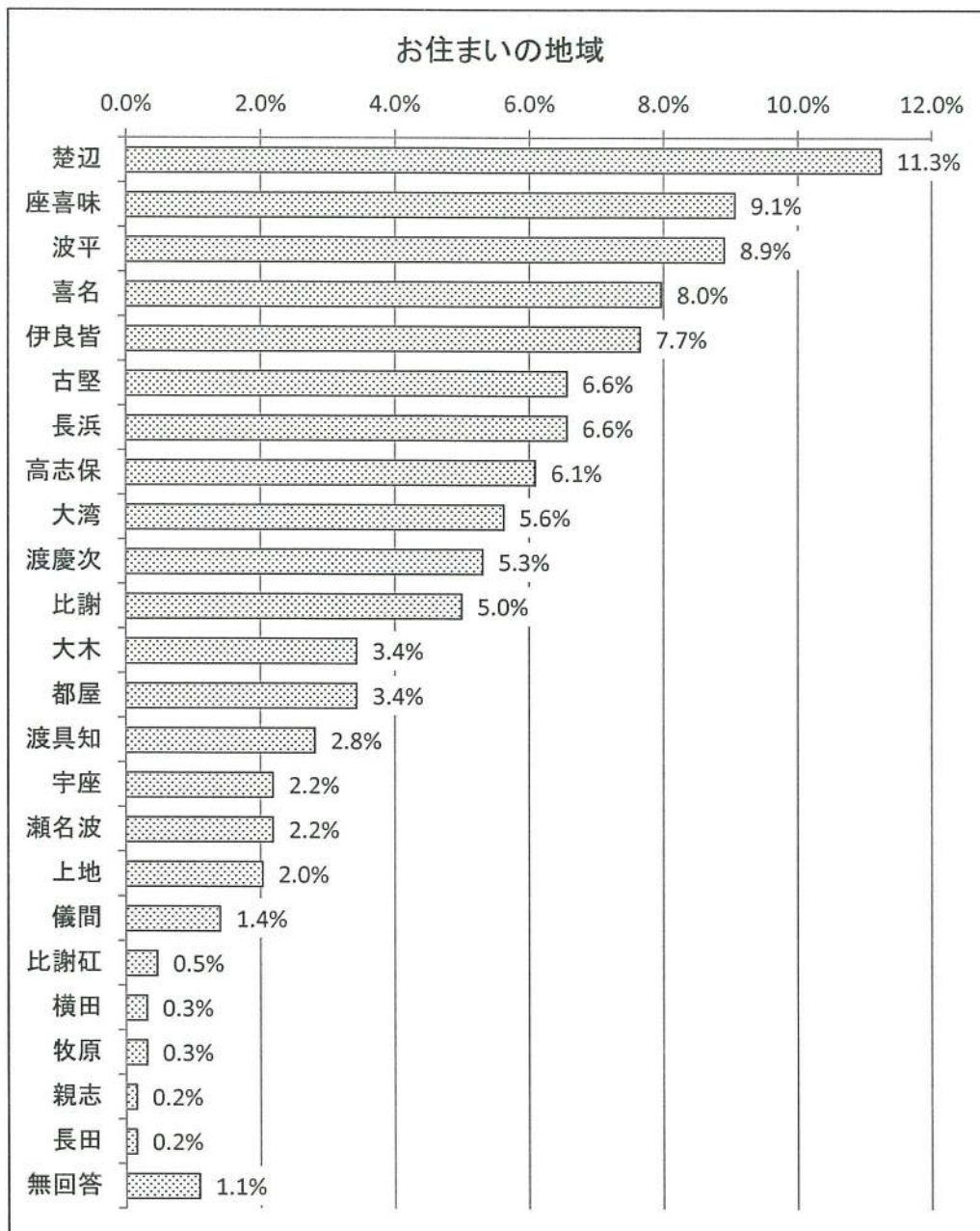


問3:お住まいの地域

回答者のお住まいの地域は、「楚辺」が11.3%で最も多く、次いで「座喜味」9.1%、「波平」8.9%、「喜名」8.0%、「伊良皆」7.7%、「古堅」及び「長浜」6.6%、「高志保」6.1%、「大湾」5.6%、「渡慶次」5.3%、「比謝」5.0%、「大木」及び「都屋」3.4%、「渡具知」2.8%、「宇座」及び「瀬名波」2.2%、「上地」2.0%、「儀間」1.4%の順となっており、その他の地域は1%未満となっている。

お住まいの地域	単位:件、%	
	件	%
楚辺	72	11.3%
座喜味	58	9.1%
波平	57	8.9%
喜名	51	8.0%
伊良皆	49	7.7%
古堅	42	6.6%
長浜	42	6.6%
高志保	39	6.1%
大湾	36	5.6%
渡慶次	34	5.3%
比謝	32	5.0%
大木	22	3.4%
都屋	22	3.4%
渡具知	18	2.8%
宇座	14	2.2%
瀬名波	14	2.2%
上地	13	2.0%
儀間	9	1.4%
比謝疇	3	0.5%
横田	2	0.3%
牧原	2	0.3%
親志	1	0.2%
長田	1	0.2%
無回答	7	1.1%
合計	640	100.0%

※設問では、お住まいの住所の字について回答をお願いしたが、「横田」「牧原」「親志」「長田」の4つについては、加入している自治会（字）で回答されている。

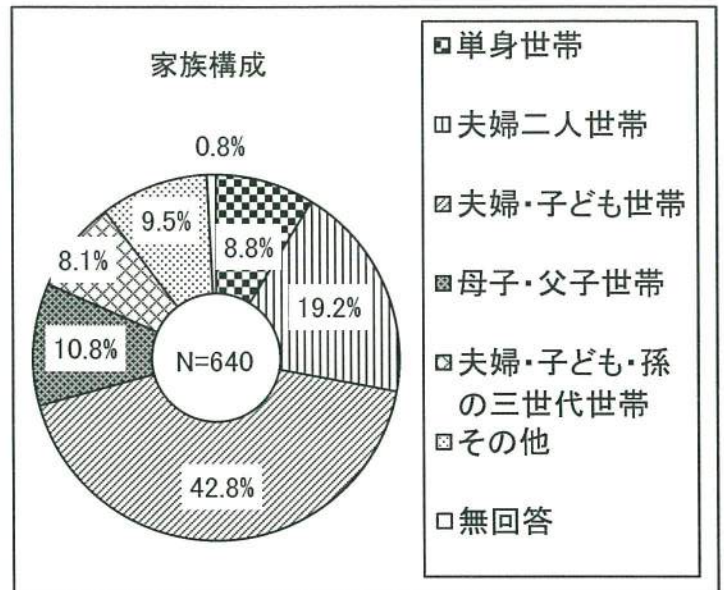


※設問では、お住まいの住所の字について回答をお願いしたが、「横田」「牧原」「親志」「長田」の4つについては、加入している自治会（字）で回答されている。

問4:家族構成

家族構成をみると、「夫婦・子ども世帯」が42.8%で最も多く、次いで「夫婦二人世帯」19.2%、「母子・父子世帯」10.8%、「その他」9.5%、「単身世帯」8.8%、「夫婦・子ども・孫の三世代世帯」8.1%の順となっており、「夫婦・子ども世帯」及び「夫婦二人世帯」で全体の6割以上を占めている。

	件	%
単身世帯	56	8.8%
夫婦二人世帯	123	19.2%
夫婦・子ども世帯	274	42.8%
母子・父子世帯	69	10.8%
夫婦・子ども・孫の三世代世帯	52	8.1%
その他	61	9.5%
無回答	5	0.8%
合計	640	100.0%

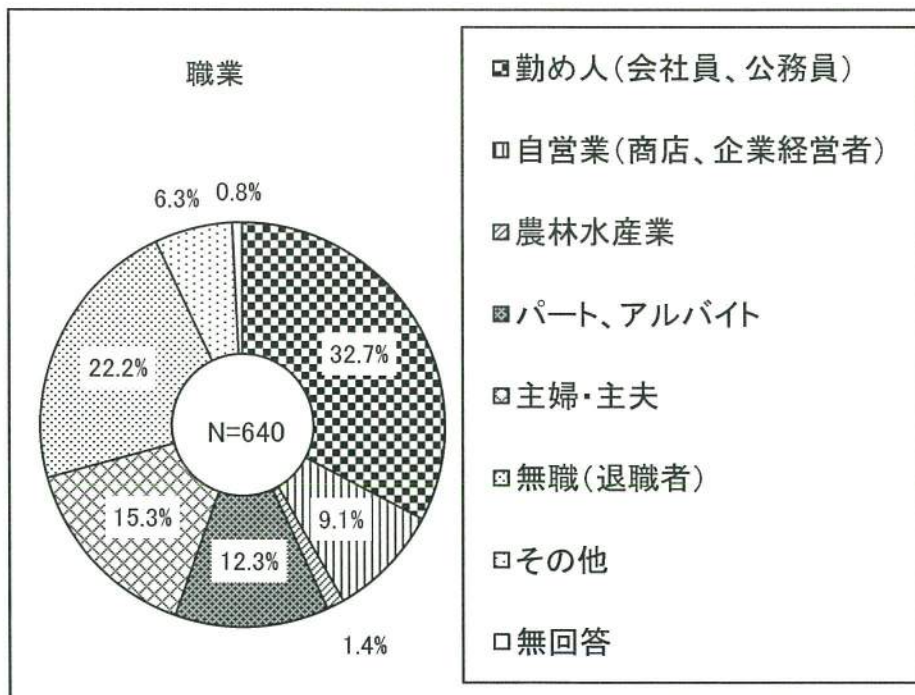


問5:回答者の職業

回答者の職業は、「勤め人（会社員、公務員）」が32.7%で最も多く、次いで「無職（退職者）」22.2%、「主婦・主夫」15.3%、「パート、アルバイト」12.3%、「自営業（商店、企業経営者）」9.1%、「その他」6.3%、「農林水産業」1.4%の順となっている。

「勤め人」をはじめとした、何らかの仕事をしている方（54.9%）が「無職」や「主婦・主夫」と回答した仕事をしていない方（37.5%）を上回っている。

	件	構成比
勤め人(会社員、公務員)	209	32.7%
自営業(商店、企業経営者)	58	9.1%
農林水産業	9	1.4%
パート、アルバイト	79	12.3%
主婦・主夫	98	15.3%
無職(退職者)	142	22.2%
その他	40	6.3%
無回答	5	0.8%
合計	640	100.0%



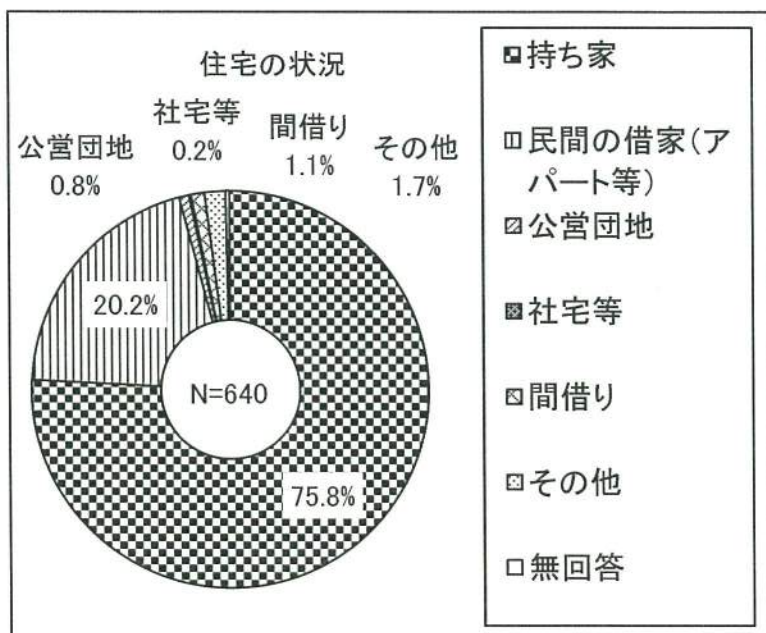
問6:住宅の状況

住宅の状況は、「持ち家」が75.8%で最も多く、次いで「民間の借家(アパート等)」20.2%となっており、他の住宅については2%未満である。

回答者の住宅の状況としては、持ち家率が約8割と高くなっている。

回答者の住宅の状況 単位:件、%

	件	構成比
持ち家	485	75.8%
民間の借家(アパート等)	129	20.2%
公営団地	5	0.8%
社宅等	1	0.2%
間借り	7	1.1%
その他	11	1.7%
無回答	2	0.3%
合計	640	100.0%

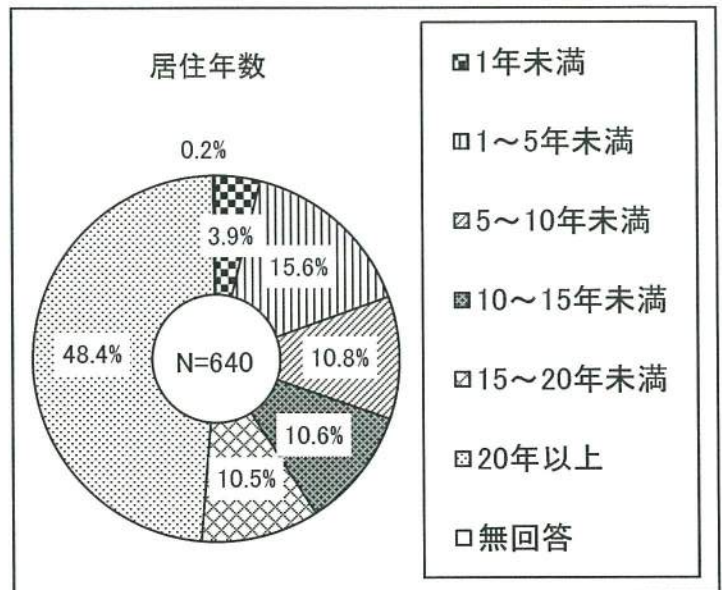


問 7: 居住年数

居住年数は、「20年以上」との回答が48.4%で最も多く、次いで「1～5年未満」15.6%、「5～10年未満」10.8%、「10～15年未満」10.6%、「15～20年未満」10.5%、「1年未満」3.9%の順となっている。

居住年数が「20年以上」の方が約5割を占めているものの、「1年未満」及び「1～5年未満」という比較的居住年数が短い方も全体の約2割いる。

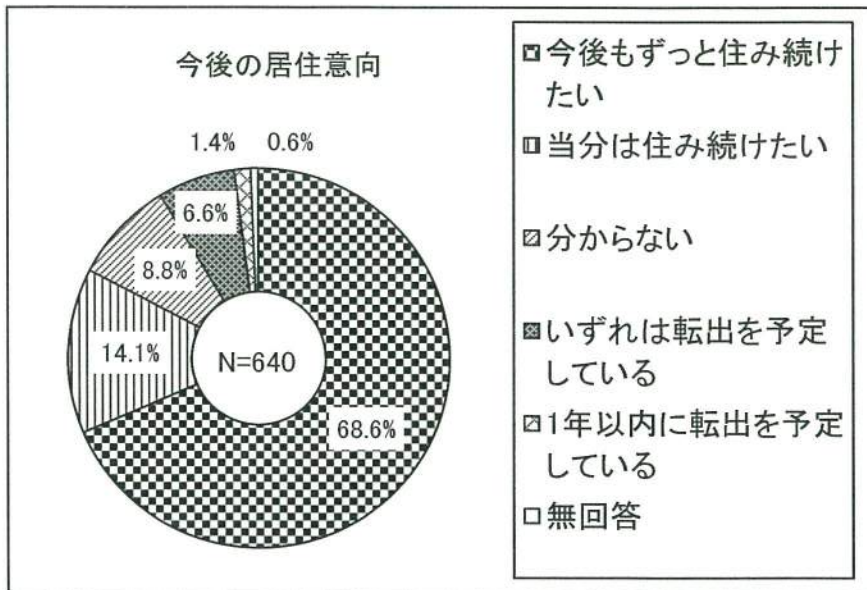
居住年数	単位: 件、%	
	件	構成比
1年未満	25	3.9%
1～5年未満	100	15.6%
5～10年未満	69	10.8%
10～15年未満	68	10.6%
15～20年未満	67	10.5%
20年以上	310	48.4%
無回答	1	0.2%
合計	640	100.0%



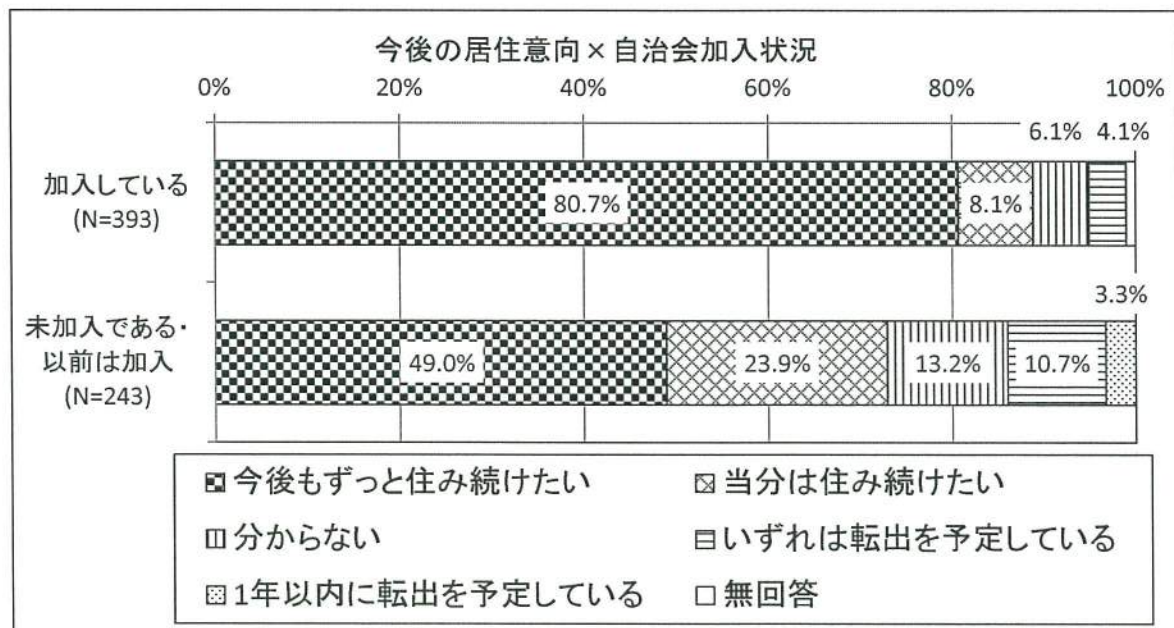
問 8: 今後の居住意向

今後の居住意向については、「今後もずっと住み続けたい」との回答が68.6%で最も多く、次いで「当分は住み続けたい」14.1%、「分からない」8.8%、「いずれは転出を予定している」6.6%、「1年以内に転出を予定している」1.4%の順となっており、読谷村にそのまま住み続けたいという意向（当分は住み続けたいも含む）をもっている方が全体の8割を占めている。

今後の居住意向	単位: 件、%	
	件	構成比
今後もずっと住み続けたい	439	68.6%
当分は住み続けたい	90	14.1%
分からない	56	8.8%
いずれは転出を予定している	42	6.6%
1年以内に転出を予定している	9	1.4%
無回答	4	0.6%
合計	640	100.0%



- 「今後の居留意向」を自治会加入・未加入別でみると、自治会加入者は明確に「今後もずっと住みたい」（約8割）との意向をしている。一方、未加入者は「今後もずっと住みたい」は5割に満たないが、「当分住みたい」（23.9%）を加えると、7割強が住みたいと回答している。
- 未加入者についても、今後も住みたい意向を示していることから、今後の自治会のあり方を検討する場合の一つの礎として評価できる。



【2. 地域に関するイメージについて】

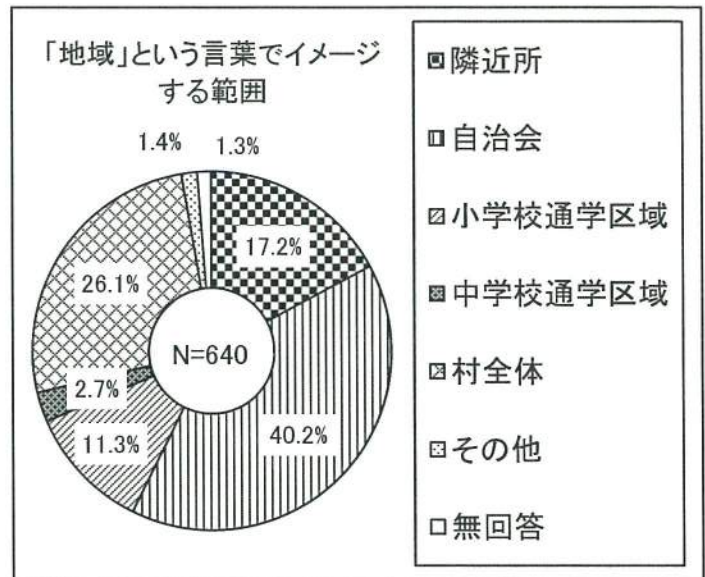
問9:「地域」という言葉でイメージする範囲

村民の皆さんが「地域」という言葉でイメージする範囲は、「自治会」が40.2%で最も多く、次いで「村全体」26.1%、「隣近所」17.2%、「小学校通学区域」11.3%、「中学校通学区域」2.7%の順となっている。

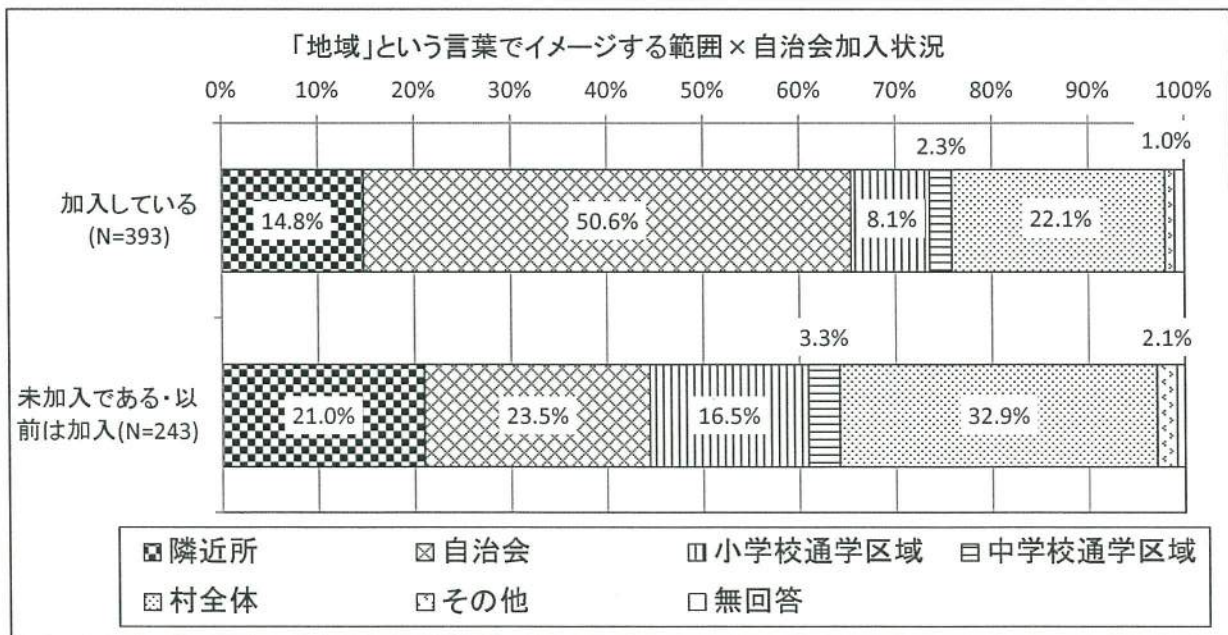
地域のイメージとしては「自治会」との回答が4割を占めているものの、「村全体」との回答も約3割あった。逆に、小学校や中学校の通学区域などについては1割程度となっている。

「地域」という言葉でイメージする範囲 単位:件、%

	件	構成比
隣近所	110	17.2%
自治会	257	40.2%
小学校通学区域	72	11.3%
中学校通学区域	17	2.7%
村全体	167	26.1%
その他	9	1.4%
無回答	8	1.3%
合計	640	100.0%



- ・「地域に関するイメージ」を自治会加入・未加入別で見ると、加入者は「自治会」、未加入者は「村全体」がそれぞれ最も高く、意向の違いを明確に示している。
- ・「読谷村まつり」をはじめとする村レベルの催しを数多く有する特性など、村レベルで一体感を感じる場面があることも推測され、今後の自治会のあり方を検討する場合の足掛かりとなる。



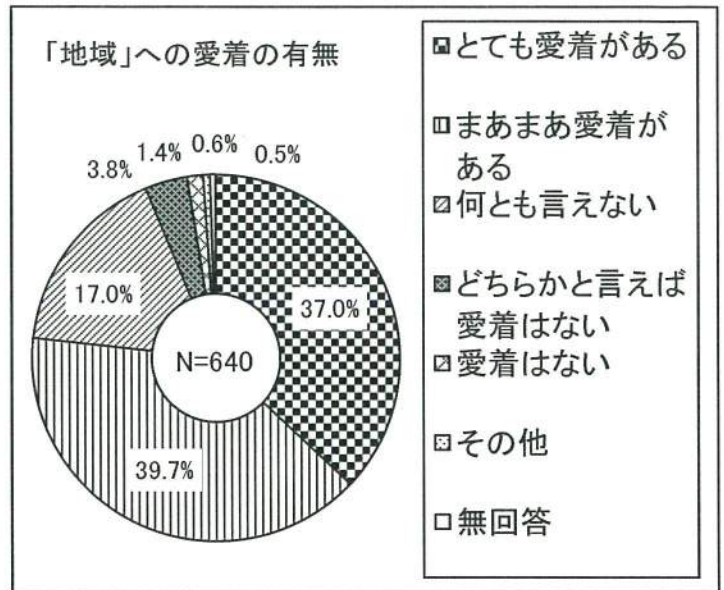
問 10:「地域」への愛着の有無

「地域」への愛着は、「まあまあ愛着がある」が39.7%で最も多く、次いで「とても愛着がある」37.0%、「何とも言えない」17.0%の順となっており、他の回答は4%未満である。

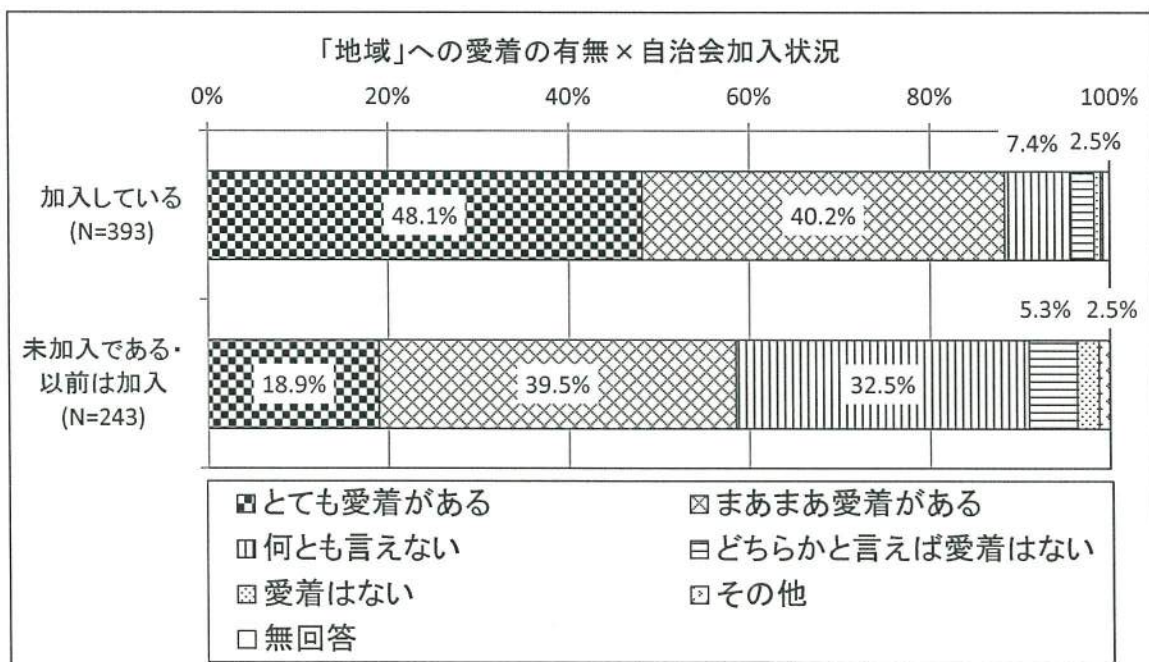
愛着があると回答（「とても愛着がある」と「まあまあ愛着がある」を含む）している方が約8割を占めており、村民の大半が愛着をもっている状況となっている。

「地域」への愛着の有無 単位:件、%

	件	構成比
とても愛着がある	237	37.0%
まあまあ愛着がある	254	39.7%
何とも言えない	109	17.0%
どちらかと言えば愛着はない	24	3.8%
愛着はない	9	1.4%
その他	4	0.6%
無回答	3	0.5%
合計	640	100.0%



- 「地域への愛着」を自治会加入・未加入別で見ると、自治会加入者は約5割が「とても愛着がある」に対し、未加入者はその半分にも満たない2割弱である。一方、「まあまあ愛着がある」はともに約4割の意向を示す。また、未加入者は「何とも言えない」も3割強の意向がある。
- 未加入者の「何とも言えない」（3割強）については、必ずしも否定的な意向ではなく、自治会未加入であることによる地域との接点の強弱を表していると推測される。



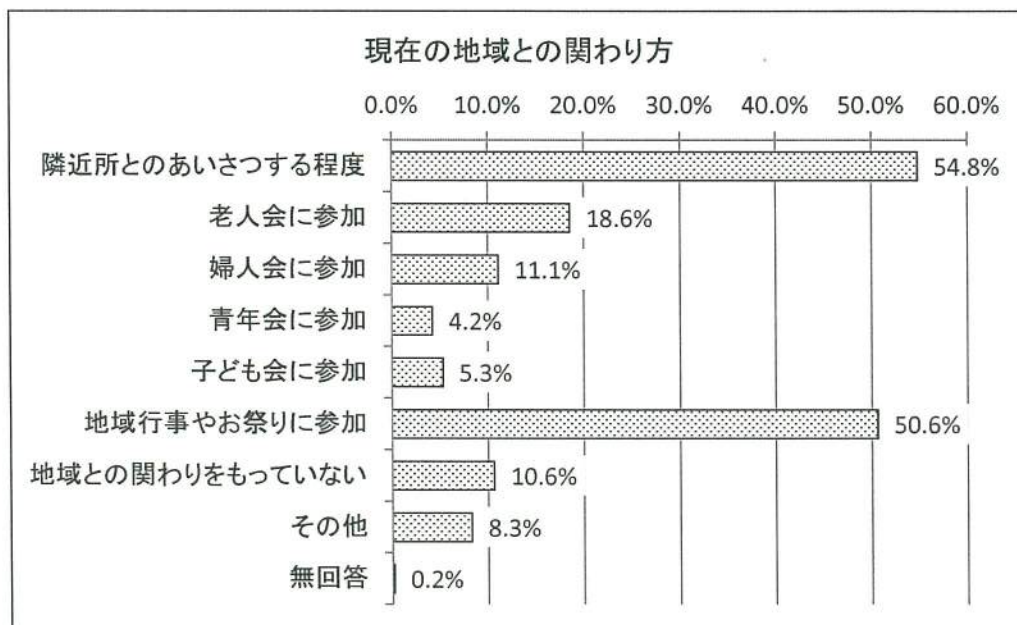
問 11:現在の地域との関わり方(複数回答)

地域との関わり方については、「隣近所とのあいさつをする程度」との回答が54.8%で最も多く、次いで「地域行事やお祭りに参加」が50.6%、「老人会に参加」18.6%、「婦人会に参加」11.1%、「地域との関わりをもっていない」10.6%、「その他」8.3%、「子ども会に参加」5.3%、「青年会に参加」4.2%の順となっている。

「地域行事やお祭りに参加」が回答者の50%以上を占めているものの、「隣近所とのあいさつをする程度」との回答も50%以上と高く、さらに、「地域との関わりをもっていない」との回答も10%程度あることから、地域活動(自治会活動)への関わりをもっている方が少ない状況が伺える。

現在の地域との関わり方 単位:件、%

	回答数	構成比
隣近所とのあいさつする程度	351	54.8%
老人会に参加	119	18.6%
婦人会に参加	71	11.1%
青年会に参加	27	4.2%
子ども会に参加	34	5.3%
地域行事やお祭りに参加	324	50.6%
地域との関わりをもっていない	68	10.6%
その他	53	8.3%
無回答	1	0.2%
回答計	1,048	163.8%
回答者計	640	100.0%

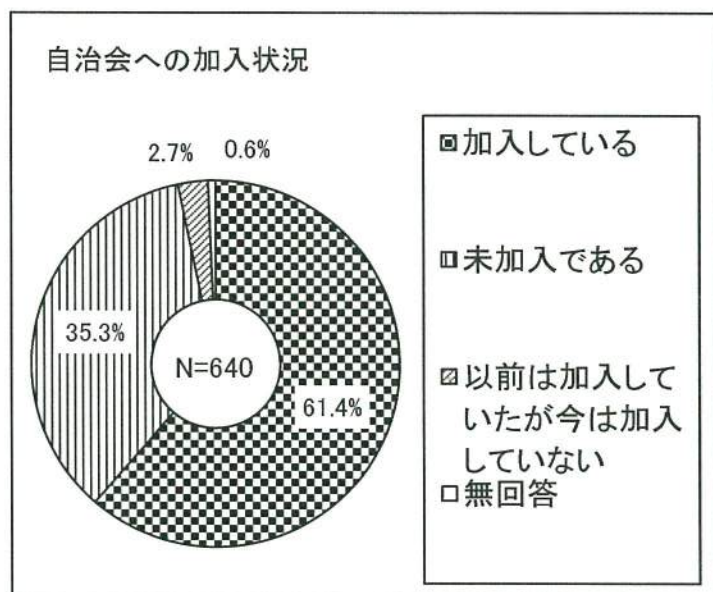


【3. 自治会への加入・参加状況】

問 12:自治会への加入状況

自治会への加入状況を見ると、「加入している」との回答が61.4%で最も多く、次いで「未加入である」が35.3%、「以前は加入していたが今は加入していない」2.7%の順となっており、自治会加入者が回答者全体の約6割を占めているものの、未加入者が約4割と割合が高くなっている。

自治会への加入状況	単位:件、%	
	件	構成比
加入している	393	61.4%
未加入である	226	35.3%
以前は加入していたが今は加入していない	17	2.7%
無回答	4	0.6%
合計	640	100.0%

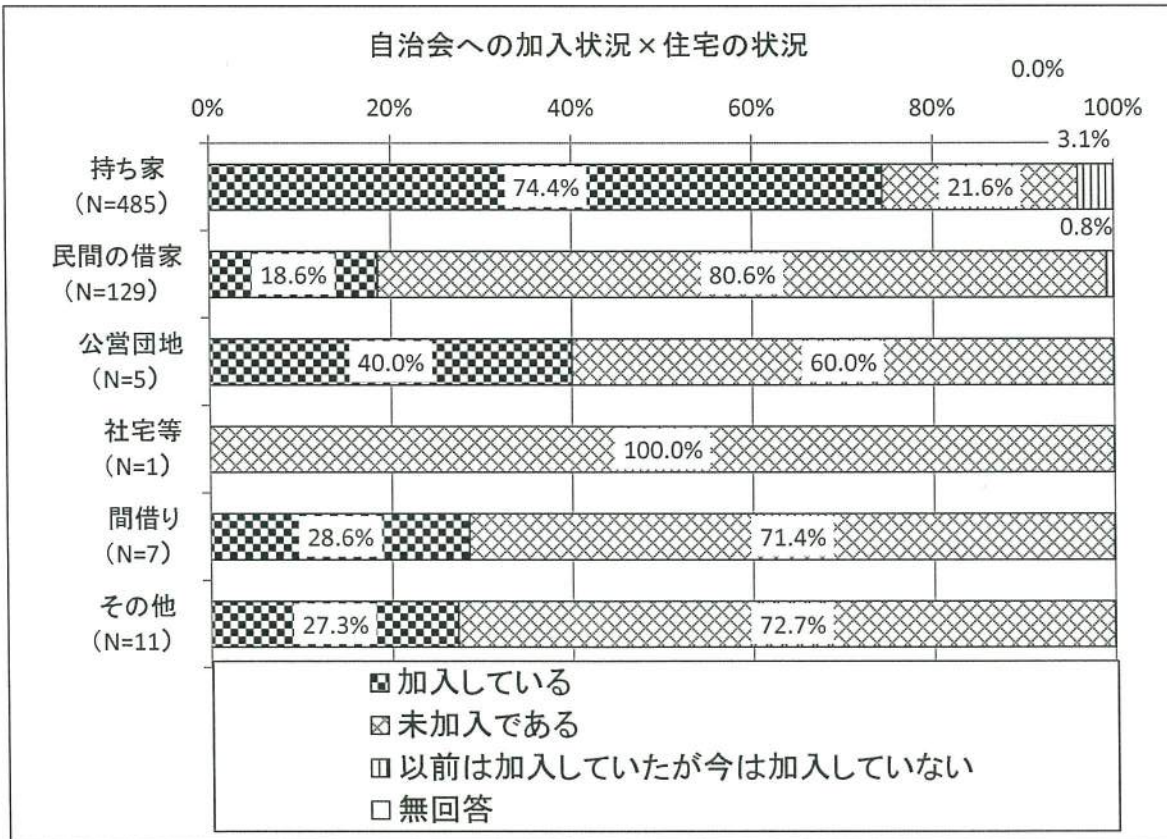
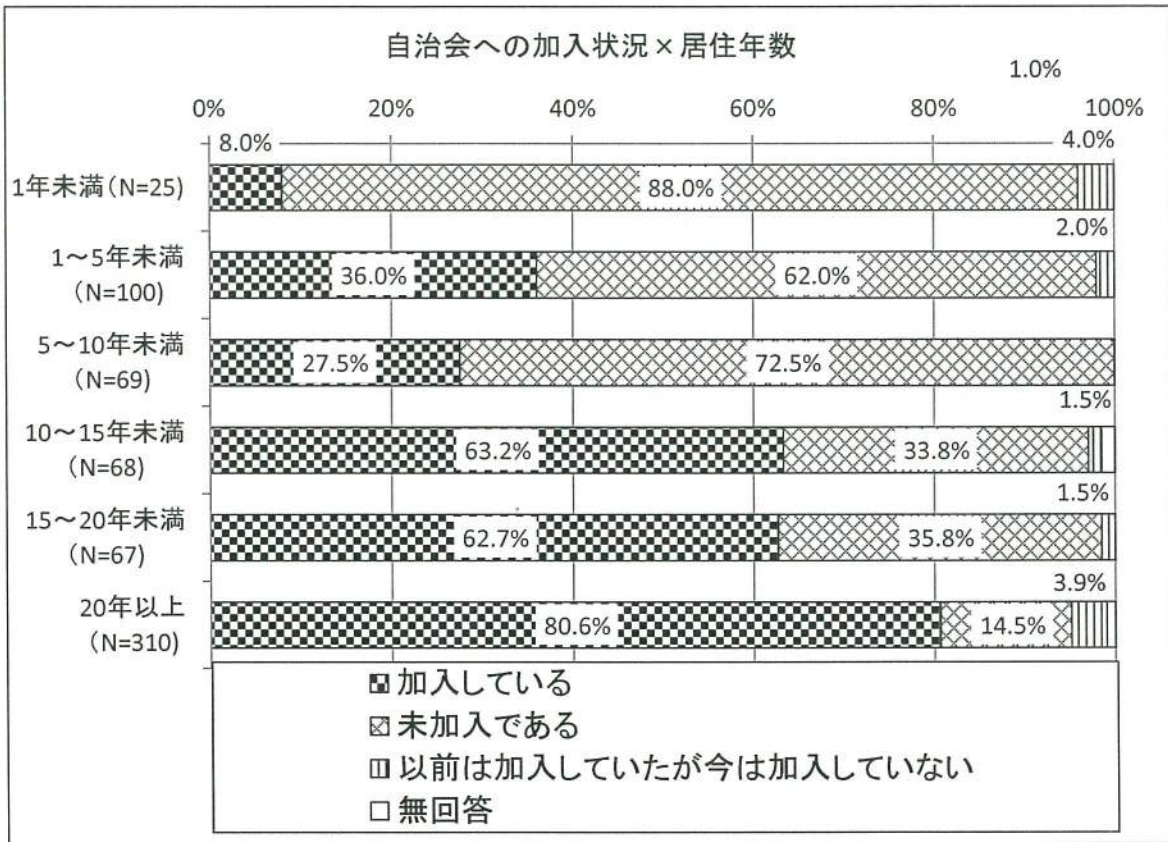


<居住年数>

- ・「自治会加入・未加入の状況」を居住年数で見ると、自治会加入者では「10年以上」の居住年数の割合が高く、未加入者では「10年以下」の居住年数の割合が高い。
- ・特に、「10～15年未満」・「15年～20未満」の居住年数でともに未加入者が3割強を示し、一定期間の居住年数を有する方でも自治会未加入者が存在する。

<住宅の状況>

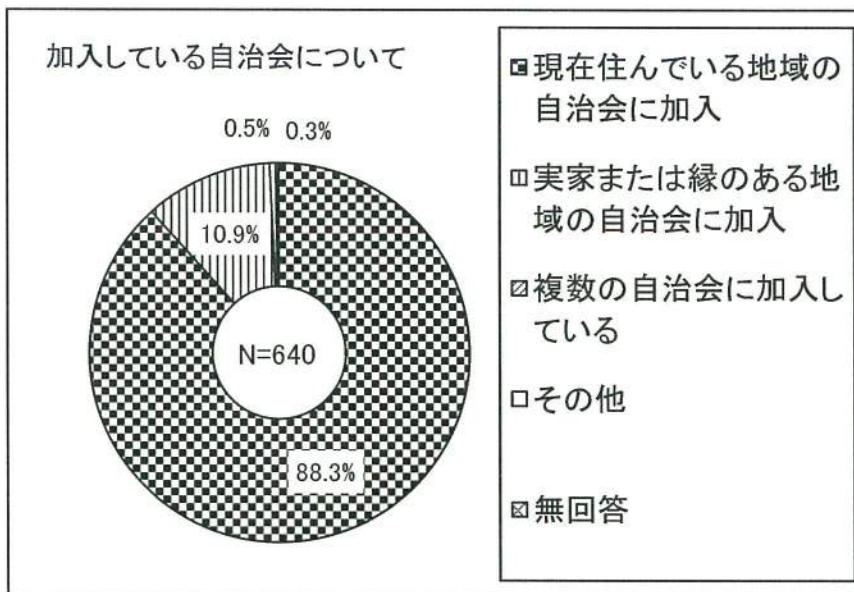
- ・「自治会加入・未加入の状況」を住宅の状況で見ると、自治会加入者は「持ち家」で7割強、「民営借家」で2割弱であり、これまでの未加入者はアパート住まいの方が多いというのを裏付ける結果となっている。



問 13: 加入している自治会について(問 12 で「加入している」と回答した方のみ)

加入している自治会については、「現在住んでいる地域の自治会に加入」との回答が 88.3% で最も多く、次いで「実家または縁のある地域の自治会に加入」が 10.9% となっており、約 9 割の方が現在住んでいる地域の自治会に加入している状況で、1 割が現在住んでいる地域以外の自治会に加入している状況がみられる。

	件	構成比
現在住んでいる地域の自治会に加入	347	88.3%
実家または縁のある地域の自治会に加入	43	10.9%
複数の自治会に加入している	0	0.0%
その他	2	0.5%
無回答	1	0.3%
合計	393	100.0%



問 14: 自治会に未加入の理由(問 12 で「未加入である」と回答した方のみ、複数回答)

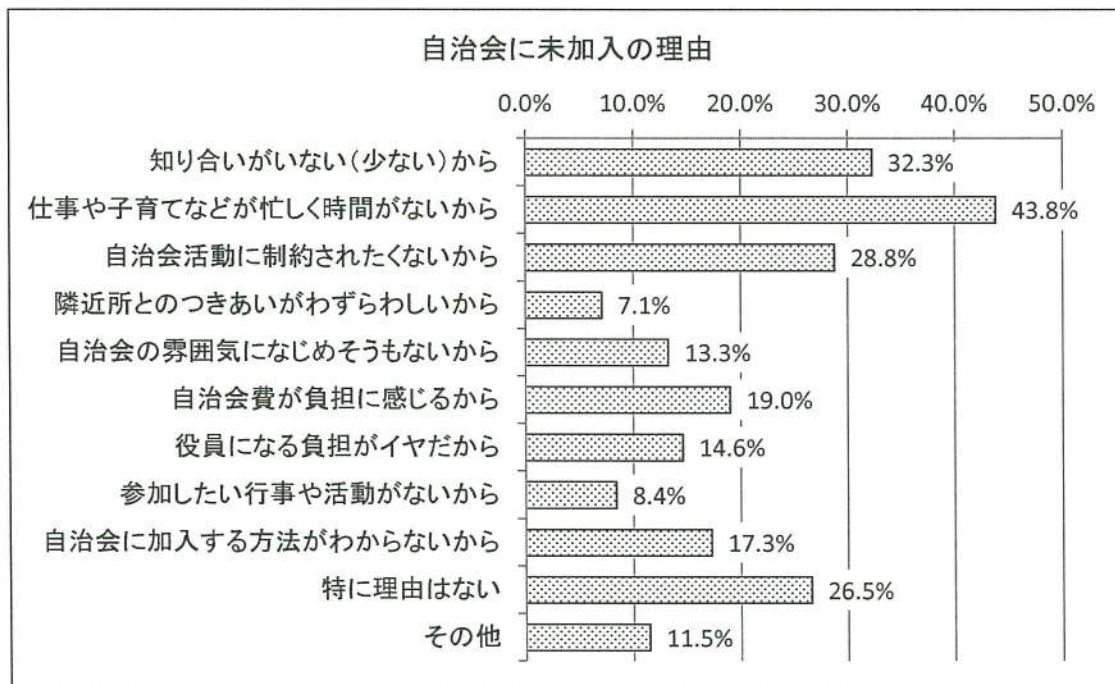
自治会に未加入の理由としては、「仕事や子育てなどが忙しく時間がないから」との回答が 43.8% で最も多く、次いで「知り合いが少ない(少ない)から」32.3%、「自治会活動に制約されたくないから」28.8%、「特に理由はない」26.5%、「自治会費が負担に感じるから」19.0%、「自治会に加入する方法がわからないから」17.3%、「役員になる負担がイヤだから」14.6%、「自治会の雰囲気になじめそうもないから」13.3%、「その他」11.5%、「参加したい行事や活動がないから」8.4%、「隣近所とのつきあいがわずらわしいから」7.1% の順となっている。

自治会に未加入の理由として「仕事等が忙しく時間がない」や「自治会活動に制約されたくない」などをはじめとした時間がないため、加入できないとの理由が上位を占めているものの、「知り合いが少ない(少ない)から」や「特に理由はない」「自治会に加入する方法がわからないから」などの理由についても 2~3 割程度回答があることから、これらの方については、隣近所同志の声かけや加入促進活動を続けていく中で、自治会へ加入する可能性があると考えられる。

自治会に未加入の理由

単位: 件、%

	回答数	構成比
知り合いが少ない(少ない)から	73	32.3%
仕事や子育てなどが忙しく時間がないから	99	43.8%
自治会活動に制約されたくないから	65	28.8%
隣近所とのつきあいがわずらわしいから	16	7.1%
自治会の雰囲気になじめそうもないから	30	13.3%
自治会費が負担に感じるから	43	19.0%
役員になる負担がイヤだから	33	14.6%
参加したい行事や活動がないから	19	8.4%
自治会に加入する方法がわからないから	39	17.3%
特に理由はない	60	26.5%
その他	26	11.5%
回答計	503	222.6%
回答者計	226	100.0%



問 15:以前は自治会に加入していたが今は加入していない理由(自由記述)

問 12 で「以前は自治会に加入していたが今は加入していない」と回答した 17 人の方の中で、14 人の方がその理由を回答している。

主な理由としては、「仕事等で忙しく活動に参加できないため」や「結婚に伴う引越しや子どもの独立などにより住んでいる地域の自治会に加入していない(必要性を感じない)」「自治会費が負担に感じるから」「高齢や健康状態が良くないため」などが理由としてあげられている。

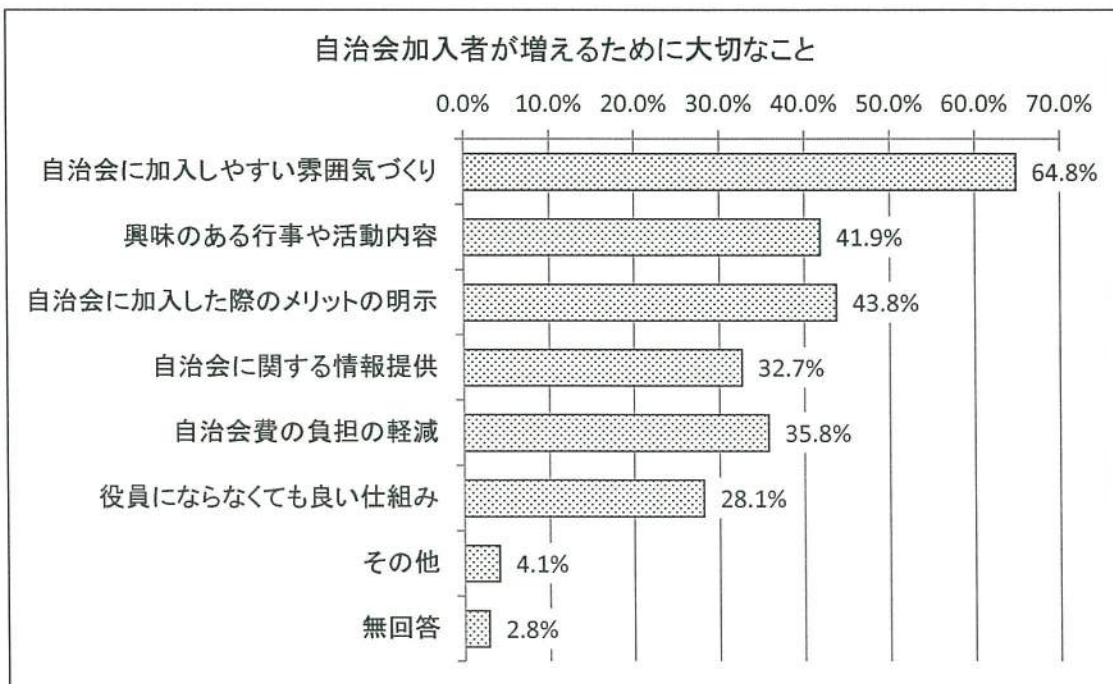
No	内容
1	住んでいる地域の自治会ではなく、配偶者の出身の自治会に属しなければならないというナンセンスなシステムに翻弄されて何のプラス要素もない事に気づき脱ける。居住地区の自治会に要望(例えば交通帯を設置して欲しい等)しても所属する自治会に相談してと言われそこで(所属自治体)相談しても居住している自治会に相談すべきと相手にされず「たらい回し」という感だ。
2	Uターンで戻ってきて仕事が忙しく参加できない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・実家から引っ越し、地域の役割を担うのが難しい ・婦人会等も参加したいが、すっかり出来上がっている為仲間入りしにくい ・仕事が不規則の為、時間の調整が難しい ・初心者会等告知があれば入りやすい
4	自治会の活動がわからない。現代に合った自治会の活動が必要だと思う。年齢別の活動にすべきであり、特に年寄りの活動を重点的に行うべきであり、行事の活動も青少年のエイサーも昔からの活動内容を変えた方が良い。移動の時もトラックに乗せての移動はやめるべきです。エイサーの予算も発表し文化活動として確立すべきです。
5	行事や活動へ全く参加出来ず、申し訳ない気持ちを思いつつ会費が負担に感じてしまい…
6	仕事(アルバイト)するようになったため
7	自治会費が払えなくなった
8	小学校は子ども会などもしていた。今は活動がない。
9	加入していた地域から引っ越し、子どもも独立したため、特に加入する必要性を感じなかった為。
10	忙しくなった
11	子育ても終わるので子ども会も終了です。今は婦人会の花壇の手入れ等行う手伝いはしていません。
12	足が悪いから自治会を引いた
13	当初は自治会に対する協力は充分したがその後自治会の統合は協力してない。
14	高齢のため

問 16:自治会加入者が増えるために大切なこと(複数回答)

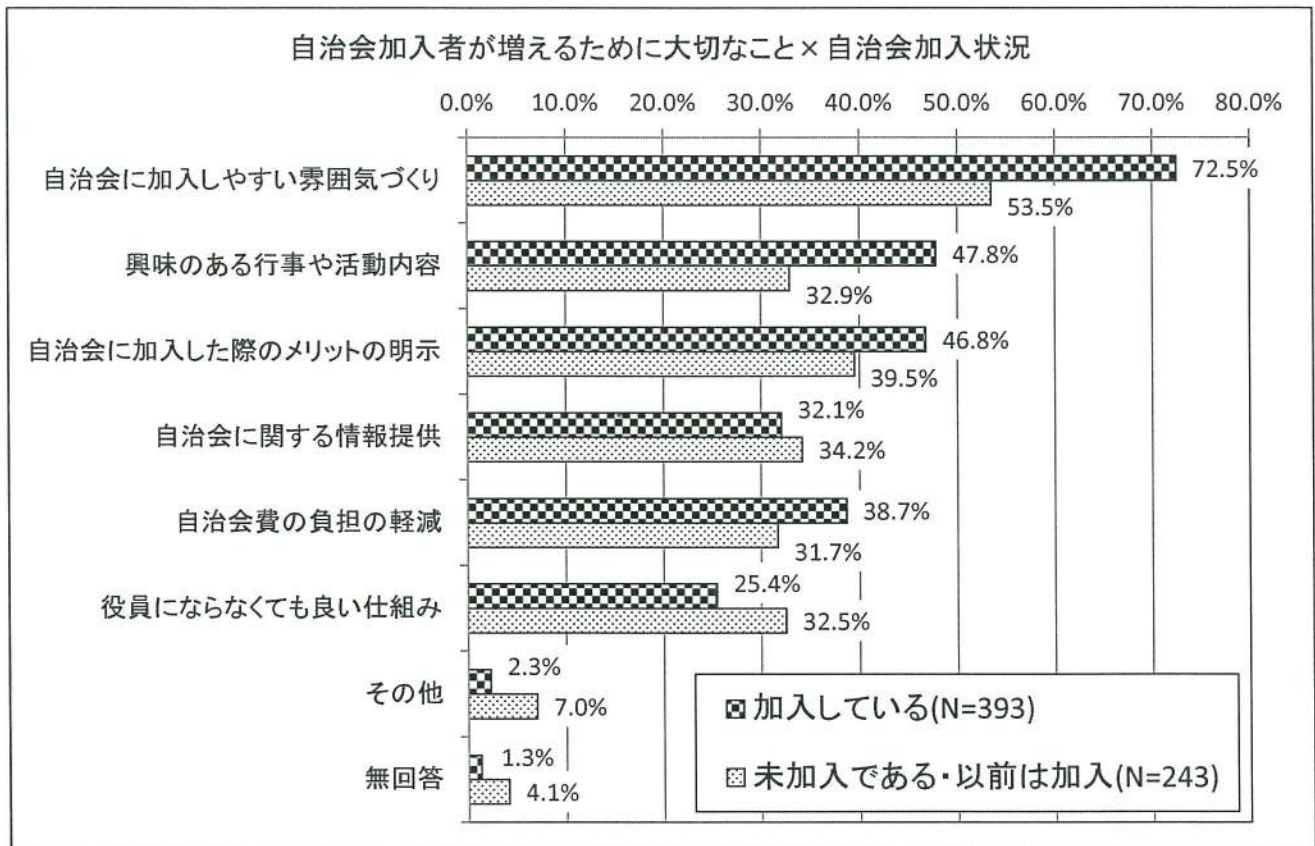
自治会加入者が増えるために大切なことについては、「自治会に加入しやすい雰囲気づくり」が64.8%で最も多く、次いで「自治会に加入した際のメリットの明示」43.8%、「興味のある行事や活動内容」41.9%、「自治会費の負担の軽減」35.8%、「自治会に関する情報提供」32.7%、「役員にならなくても良い仕組み」28.1%の順となっている。

どの理由についても、概ね30%以上の回答があるものの、その中でも「自治会に加入しやすい雰囲気づくり」との回答が60%以上を占めていることから、多くの方が、現状の自治会に新たに参加するには敷居が高いと感じている状況が伺える。また、その他の理由としては、活動内容をはじめ、加入した際のメリットの明示や自治会情報提供などを充実させることが重要であると考えている方が多い。

自治会加入者が増えるために大切なこと	単位:件、%	
	回答数	構成比
自治会に加入しやすい雰囲気づくり	415	64.8%
興味のある行事や活動内容	268	41.9%
自治会に加入した際のメリットの明示	280	43.8%
自治会に関する情報提供	209	32.7%
自治会費の負担の軽減	229	35.8%
役員にならなくても良い仕組み	180	28.1%
その他	26	4.1%
無回答	18	2.8%
回答計	1,625	253.9%
回答者計	640	100.0%



- 「自治会加入者が増えるために大切なこと」を自治会加入・未加入別で見ると、未加入者における「自治会に関する情報提供」や「役員にならなくても良い仕組み」に対する意向が明確に示されており、今後の自治会のあり方を検討する場合の課題の一つといえる。
- 特に、「自治会に関する情報提供」については、現在の若い世代から子育て世代の情報の入手方法がインターネットによる情報収集が主流であることから、その辺も考慮した情報の提供が重要になると考えられる。



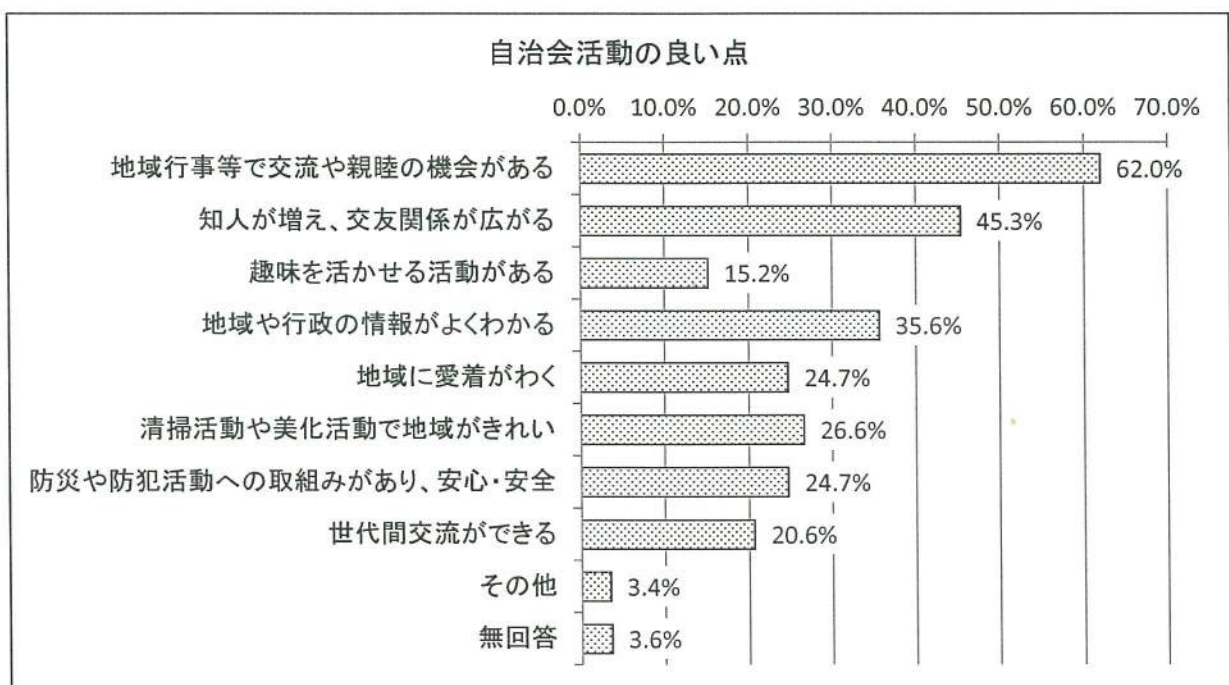
[4. 自治会及び諸活動について]

問 17:自治会活動の良い点(複数回答)

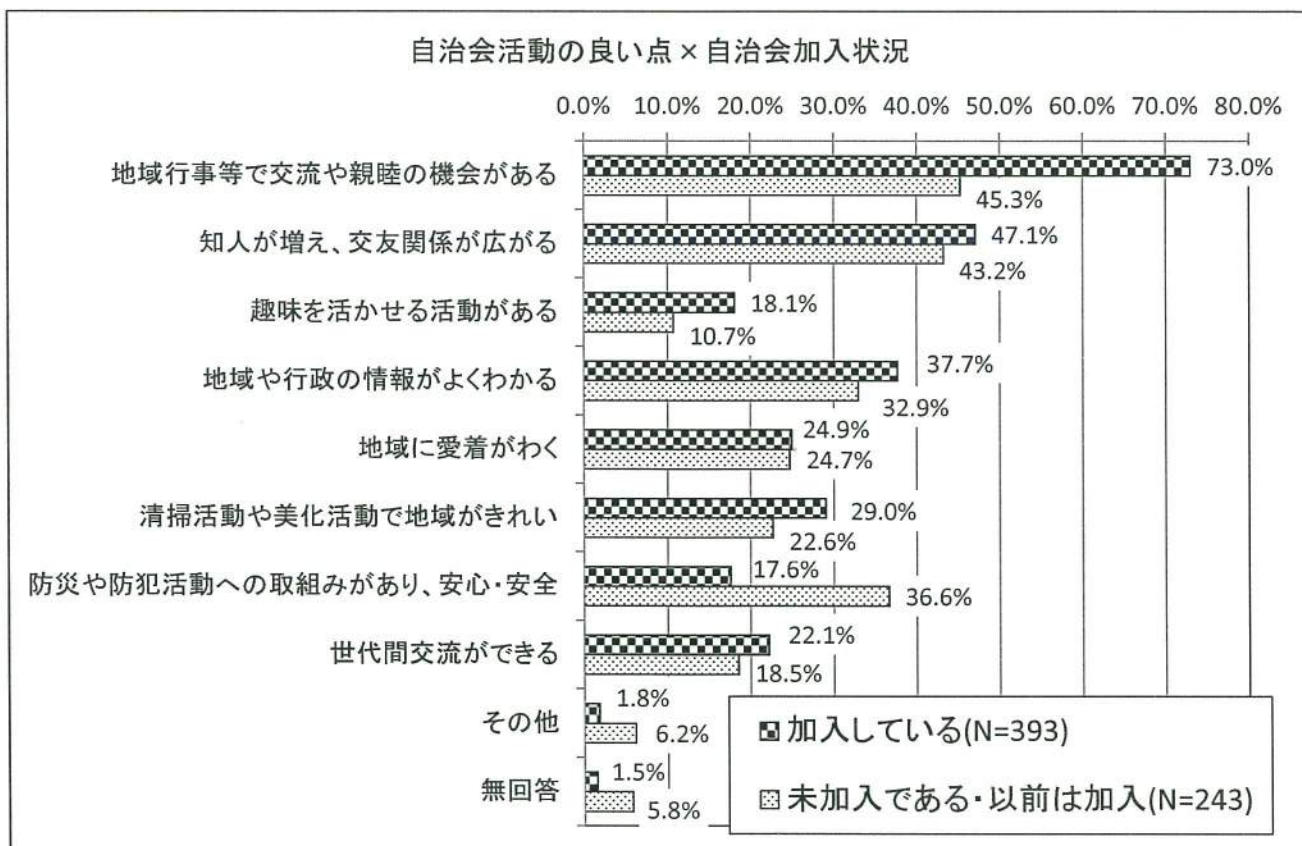
自治会活動の良い点としては、「地域行事等で交流や親睦の機会がある」が62.0%で最も多く、次いで「知人が増え、交友関係が広がる」45.3%、「地域や行政の情報がよくわかる」35.6%、「清掃活動や美化活動で地域がきれい」26.6%、「地域に愛着がわく」及び「防災や防犯活動への取組みがあり、安心・安全」が24.7%、「世代間交流ができる」20.6%、「趣味を活かせる活動がある」15.2%の順となっている。

交流の機会が増えることや交友関係が広がることなどについて、自治会活動の良い点として高く評価している。逆に、「趣味を活かせる活動がある」との回答は他の理由より評価低いことから、現状として、自治会活動について興味のある活動が少ないと感じている方が多いことが想定される。

	回答数	構成比
地域行事等で交流や親睦の機会がある	397	62.0%
知人が増え、交友関係が広がる	290	45.3%
趣味を活かせる活動がある	97	15.2%
地域や行政の情報がよくわかる	228	35.6%
地域に愛着がわく	158	24.7%
清掃活動や美化活動で地域がきれい	170	26.6%
防災や防犯活動への取組みがあり、安心・安全	158	24.7%
世代間交流ができる	132	20.6%
その他	22	3.4%
無回答	23	3.6%
回答計	1,675	261.7%
回答者計	640	100.0%



- 「自治会活動の良い点」を自治会加入・未加入別でみると、自治会に加入・未加入に関わらず、交流の機会があり、交友関係が広がる、地域等の情報がよくわかるとの評価は高く、その点については引き続き今後ともブラッシュアップが検討される。
- 未加入者の特徴としては、防災や防犯に関する意識が高く、それらの活動に関する自治会への評価が高いことから、「防災や防犯」が自治会加入のキーポイントになることが考えられる。

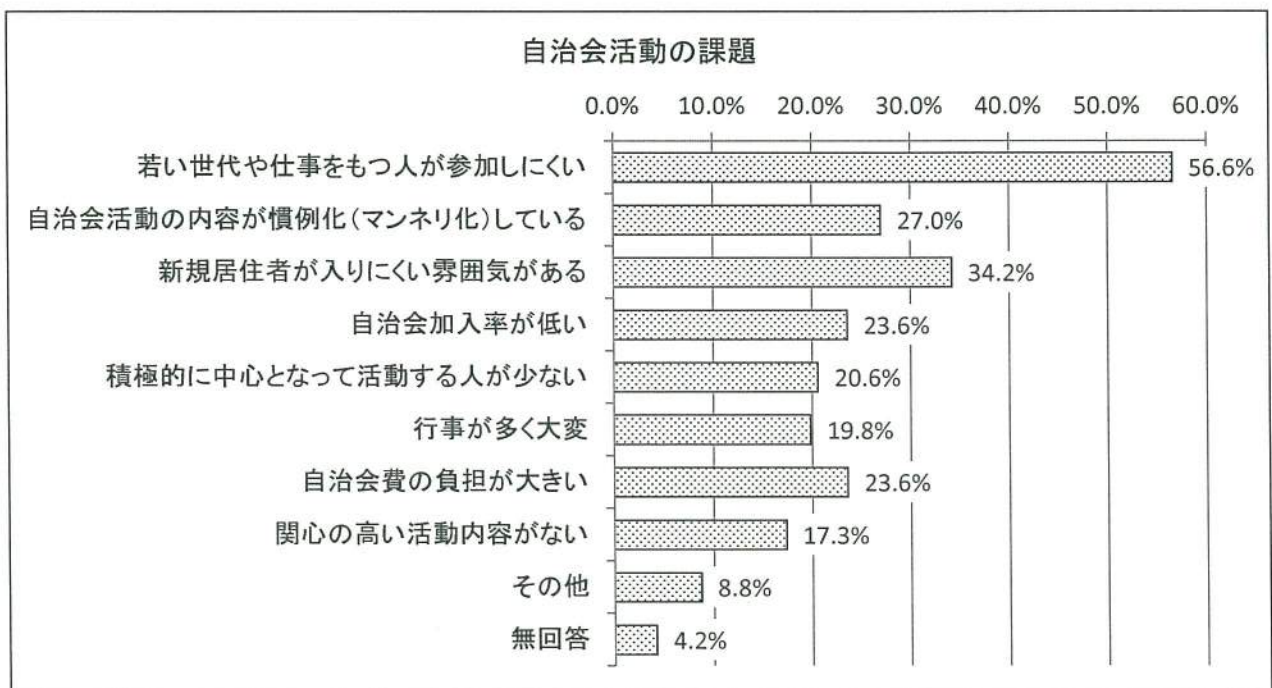


問 18:自治会活動の課題(複数回答)

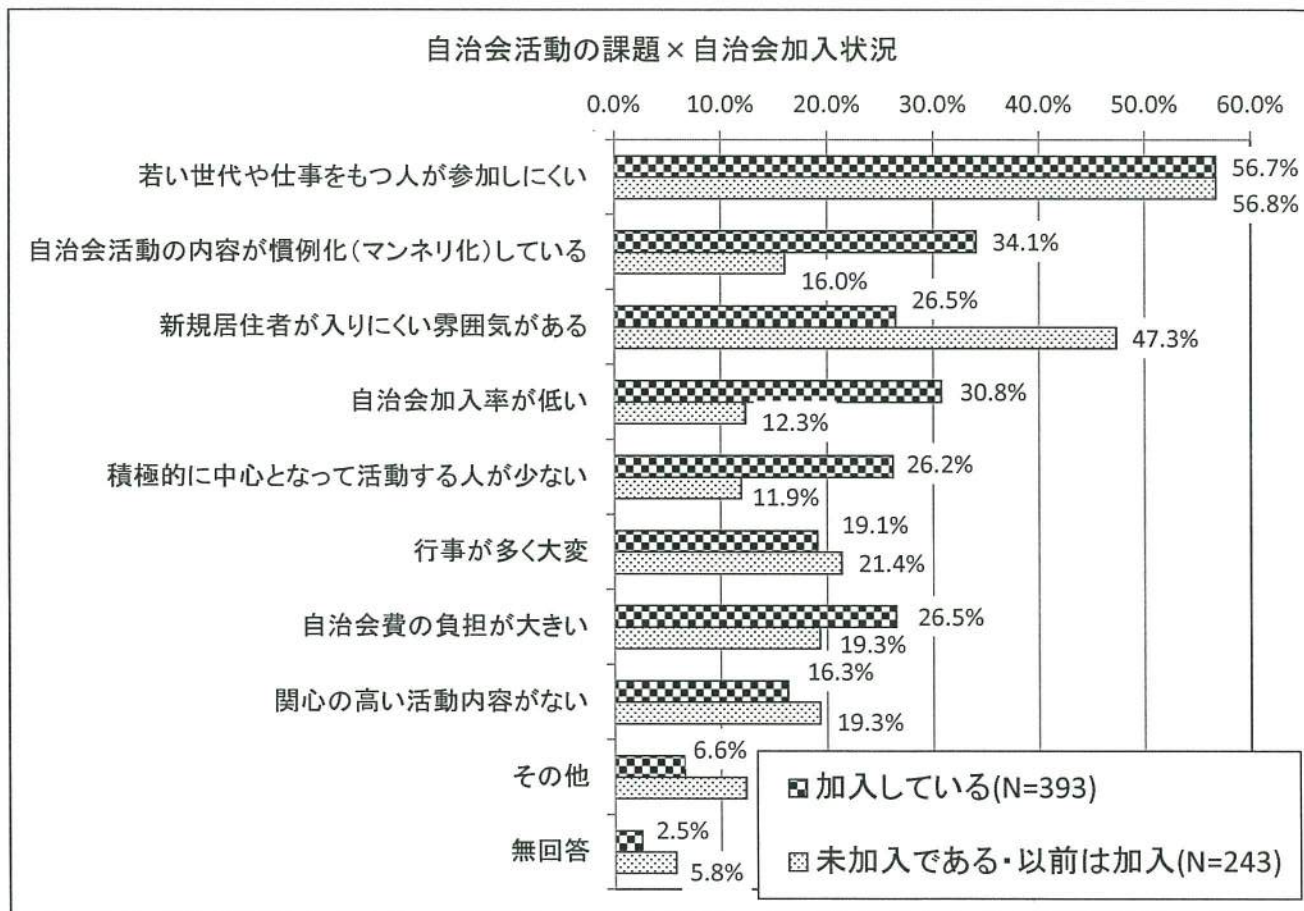
自治会活動の課題としては、「若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい」との回答が56.6%で最も多く、次いで「新規居住者が入りにくい雰囲気がある」34.2%、「自治会活動の内容が慣例化(マンネリ化)している」27.0%、「自治会加入率が低い」及び「自治会費の負担が大きい」23.6%、「積極的に中心となって活動する人が少ない」20.6%、「行事が多く大変」19.8%、「関心の高い活動内容がない」17.3%の順となっている。

これらのことから、現状の自治会の課題として、若い世代の参加不足をはじめ中心となって活動する人が少ない、新規居住者が入りにくいなど、今後の自治会活動を支える「人材不足」について危機意識を感じていることが伺える。

自治会活動の課題	回答数	構成比
若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい	362	56.6%
自治会活動の内容が慣例化(マンネリ化)している	173	27.0%
新規居住者が入りにくい雰囲気がある	219	34.2%
自治会加入率が低い	151	23.6%
積極的に中心となって活動する人が少ない	132	20.6%
行事が多く大変	127	19.8%
自治会費の負担が大きい	151	23.6%
関心の高い活動内容がない	111	17.3%
その他	56	8.8%
無回答	27	4.2%
回答計	1,509	235.8%
回答者計	640	100.0%



- 「自治会活動の課題」を自治会加入・未加入別でみると、両者とも「若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい」ことに対し、明確な意向が示されている。
- 特に、未加入者については、「新規居住者が入りにくい雰囲気がある」・「行事が多く大変」・「関心の高い活動内容がない」に強い意向が感じられ、今後の自治会のあり方を検討する場合の足掛かりとなる。

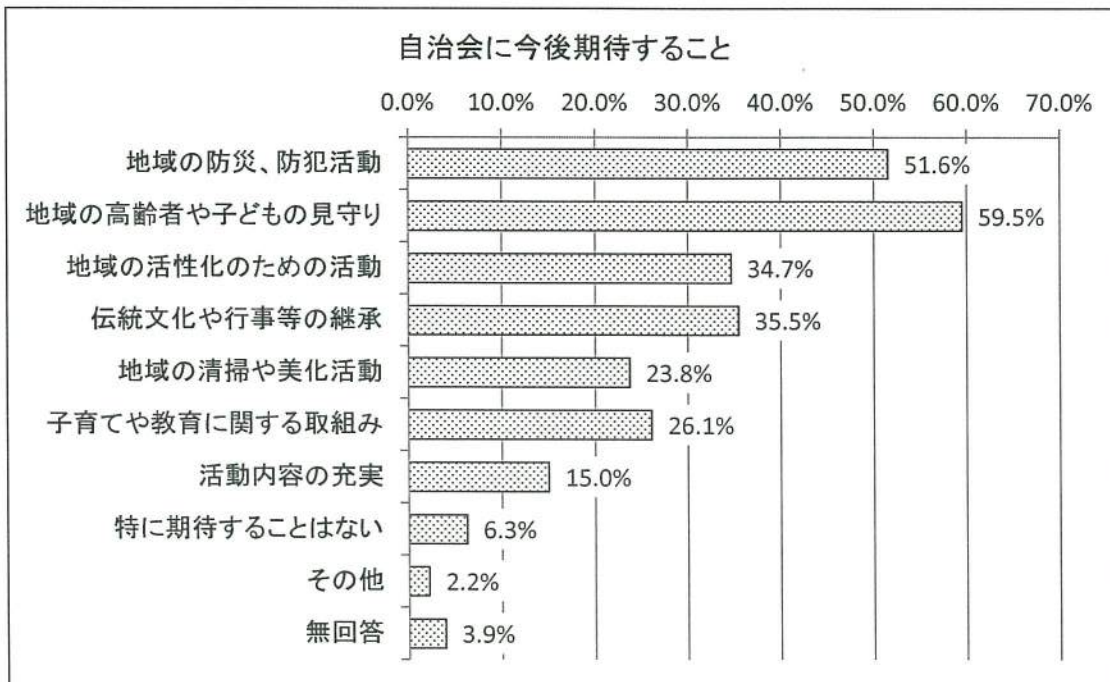


問 19:自治会に今後期待すること(複数回答)

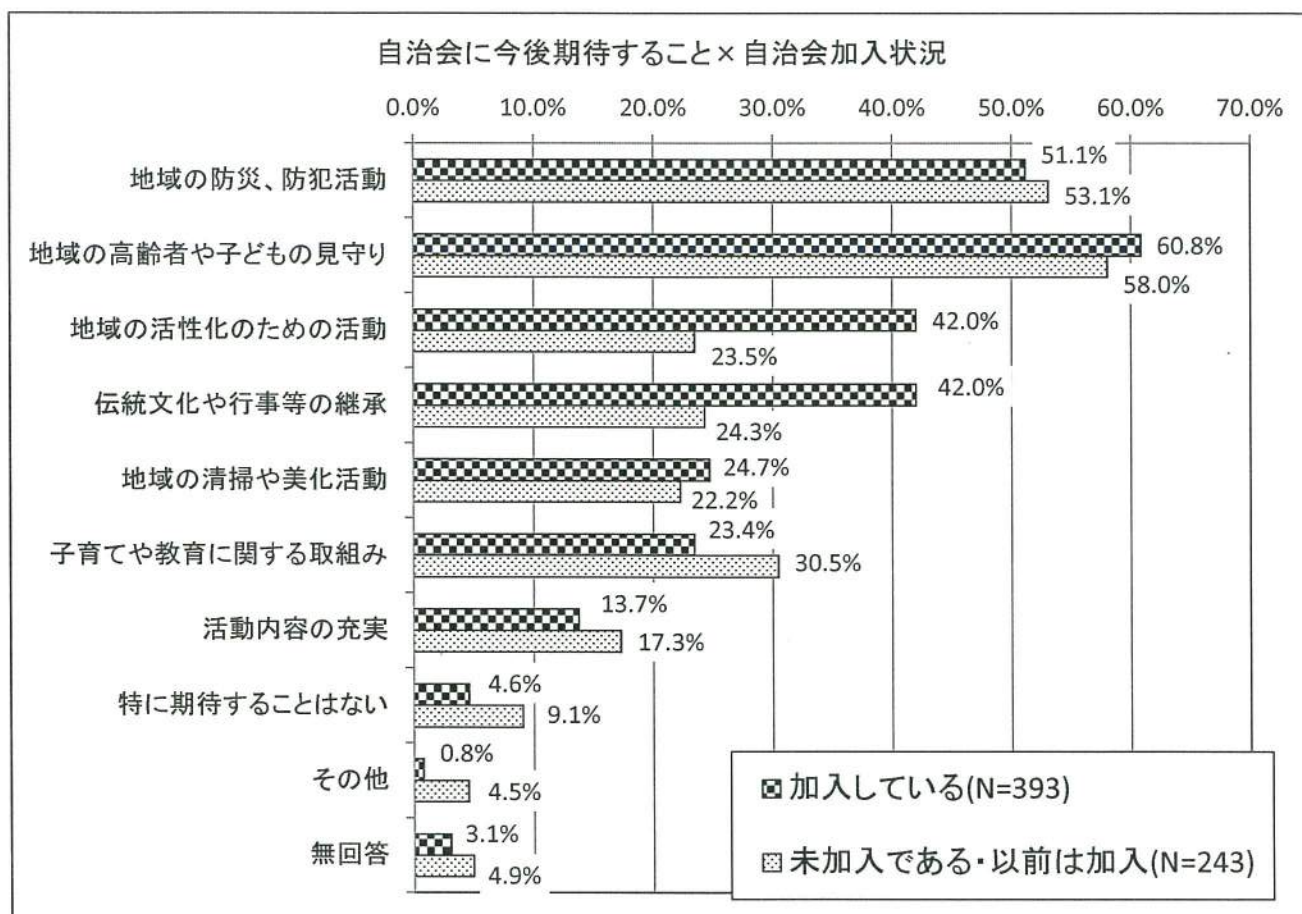
自治会に今後期待することについては、「地域の高齢者や子どもの見守り」が59.5%で最も多く、次いで「地域の防災、防犯活動」51.6%、「伝統文化や行事等の継承」35.5%、「地域活性化のための活動」34.7%、「子育てや教育に関する取組み」26.1%、「地域の清掃や美化活動」23.8%、「活動内容の充実」15.0%、「特に期待することはない」6.3%の順となっている。

高齢者や子どもの見守りをはじめとして、防災や防犯活動に関する期待が他の項目に比べ突出して大きくなっている。これらのことから、住民の関心が高いことから手始めに活動を充実させていくことが重要になると考えられる。

自治会に今後期待すること		単位:件、%	
	回答数	構成比	
地域の防災、防犯活動	330	51.6%	
地域の高齢者や子どもの見守り	381	59.5%	
地域の活性化のための活動	222	34.7%	
伝統文化や行事等の継承	227	35.5%	
地域の清掃や美化活動	152	23.8%	
子育てや教育に関する取組み	167	26.1%	
活動内容の充実	96	15.0%	
特に期待することはない	40	6.3%	
その他	14	2.2%	
無回答	25	3.9%	
回答計	1,654	258.4%	
回答者計	640	100.0%	



- 「自治会に今後期待すること」を自治会加入・未加入別で見ると、両者とも「地域の防災、防犯活動」と「地域の高齢者や子どもの見守り」に対し、明確な意向が示されている。
- それ以外では、自治会加入者では「地域の活性化のための活動」と「伝統文化や行事等の継承」に対し高い期待が寄せられている。一方、未加入者では「子育てや教育に関する取り組み」への期待が高くなっていることから、これらの期待に対する対応を検討する必要がある。



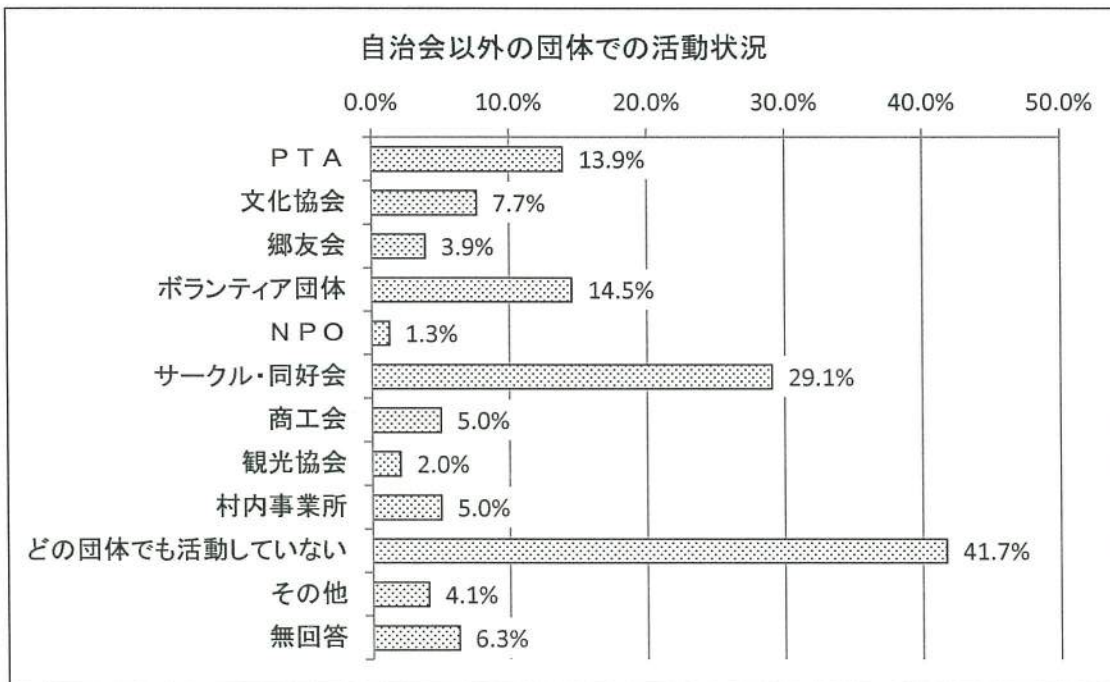
【5. 自治会以外の団体での活動状況について】

問 20:自治会以外の団体での活動状況(複数回答)

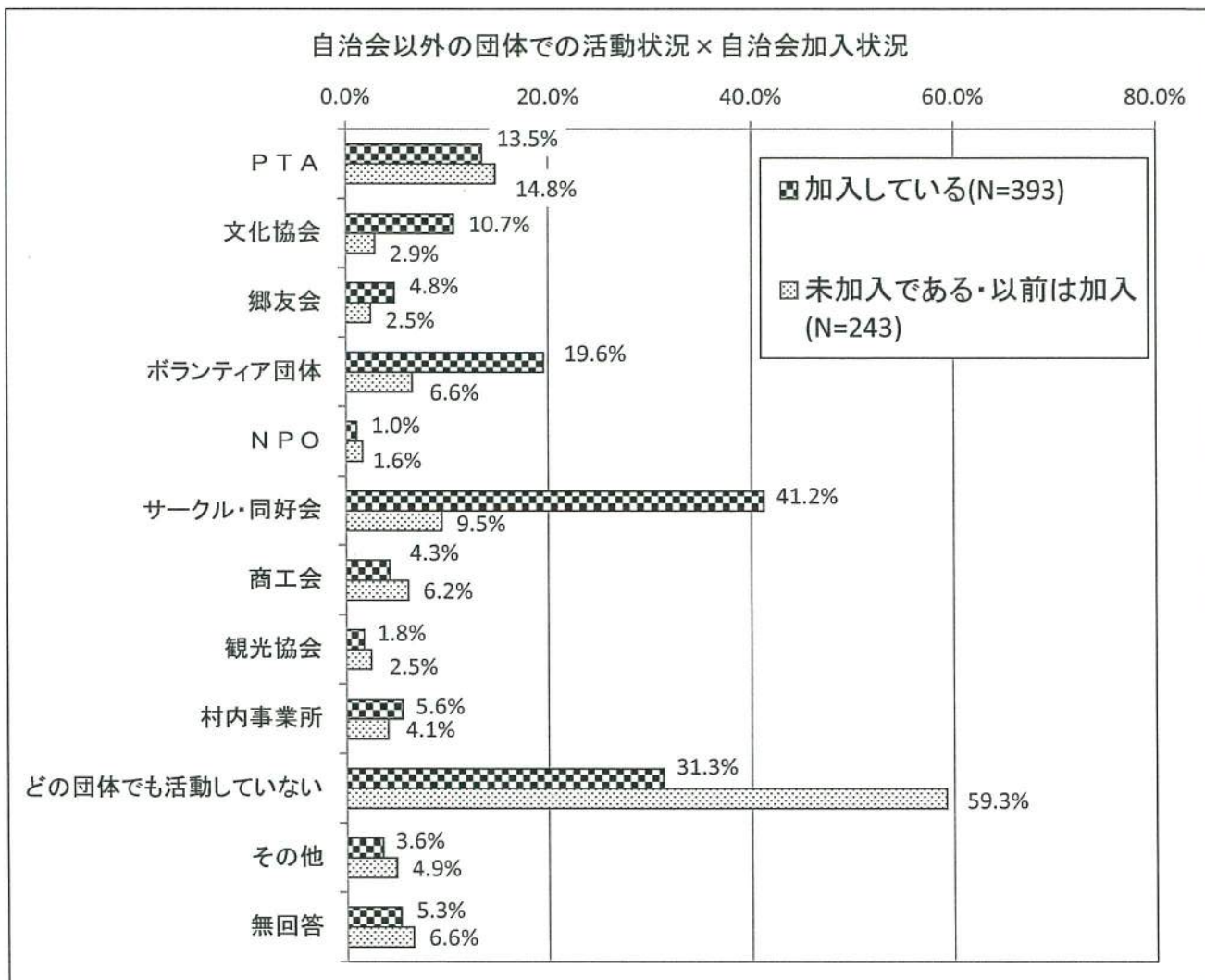
自治会以外の団体での活動状況をみると、「どの団体でも活動していない」との回答が41.7%で最も多く、次いで「サークル・同好会」29.1%、「ボランティア団体」14.5%、「PTA」13.9%、「文化協会」7.7%、「商工会」及び「村内事業所」5.0%、「その他」4.1%、「郷友会」3.9%、「観光協会」2.0%、「NPO」1.3%の順となっている。

自治会以外の団体で活動している方は少ないものの、活動している団体では、「サークル・同好会」や「ボランティア団体」が多くなっていることから、物事の考え方もしくは趣味の共通する仲間の集まりに参加している方が多くなっている。

	回答数	構成比
PTA	89	13.9%
文化協会	49	7.7%
郷友会	25	3.9%
ボランティア団体	93	14.5%
NPO	8	1.3%
サークル・同好会	186	29.1%
商工会	32	5.0%
観光協会	13	2.0%
村内事業所	32	5.0%
どの団体でも活動していない	267	41.7%
その他	26	4.1%
無回答	40	6.3%
回答計	860	134.4%
回答者計	640	100.0%



- 「自治会以外の団体での活動状況」を自治会加入・未加入別で見ると、特に、未加入者においては「どの団体でも活動していない」が約6割も占めており、地域の中で何ら横のつながりを持たない村民が潜在的に存在することが推測される。

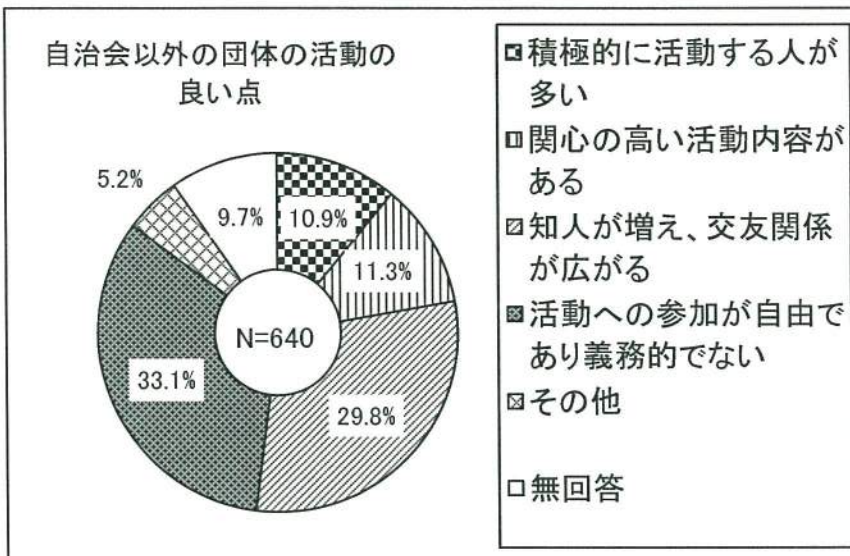


問 21:自治会以外の団体の活動の良い点

自治会以外の団体の活動の良い点としては、「活動への参加が自由であり義務的でない」が33.1%で最も多く、次いで「知人が増え、交友関係が広がる」29.8%、「関心の高い活動内容がある」11.3%、「積極的に活動する人が多い」10.9%、「その他」5.2%の順となっている。

考え方や趣味が共通の方の集まりのため、交友関係の広がりや参加が自由であるということが団体の活動に参加する上で重要であると考えていることが伺える。

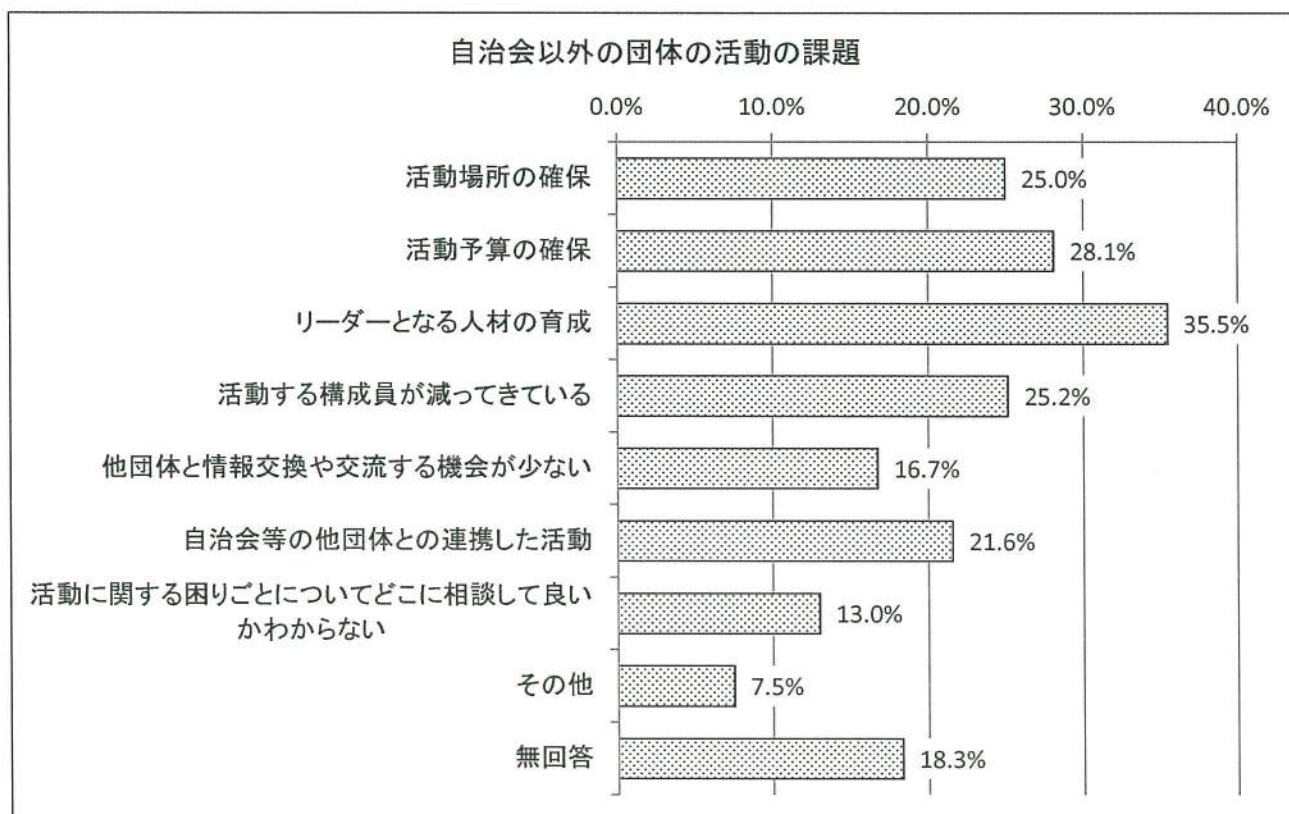
	件	構成比
積極的に活動する人が多い	70	10.9%
関心の高い活動内容がある	72	11.3%
知人が増え、交友関係が広がる	191	29.8%
活動への参加が自由であり義務的でない	212	33.1%
その他	33	5.2%
無回答	62	9.7%
合計	640	100.0%



問 22: 自治会以外の団体の活動の課題(複数回答)

自治会以外の団体の活動の課題については、「リーダーとなる人材の育成」が35.5%で最も多く、次いで「活動予算の確保」28.1%、「活動する構成員が減ってきている」25.2%、「活動場所の確保」25.0%、「自治会等の他団体との連携した活動」21.6%、「他団体と情報交換や交流する機会が少ない」16.7%、「活動に関する困りごとについてどこに相談して良いかわからない」13.0%の順となっており、自治会の課題と同様に「人材」に関することが課題として認識が高いことが伺える。

自治会以外の団体の活動の課題		単位: 件、%	
	回答数	構成比	
活動場所の確保	160	25.0%	
活動予算の確保	180	28.1%	
リーダーとなる人材の育成	227	35.5%	
活動する構成員が減ってきている	161	25.2%	
他団体と情報交換や交流する機会が少ない	107	16.7%	
自治会等の他団体との連携した活動	138	21.6%	
活動に関する困りごとについてどこに相談して良いかわからない	83	13.0%	
その他	48	7.5%	
無回答	117	18.3%	
回答計	1,221	190.8%	
回答者計	640	100.0%	



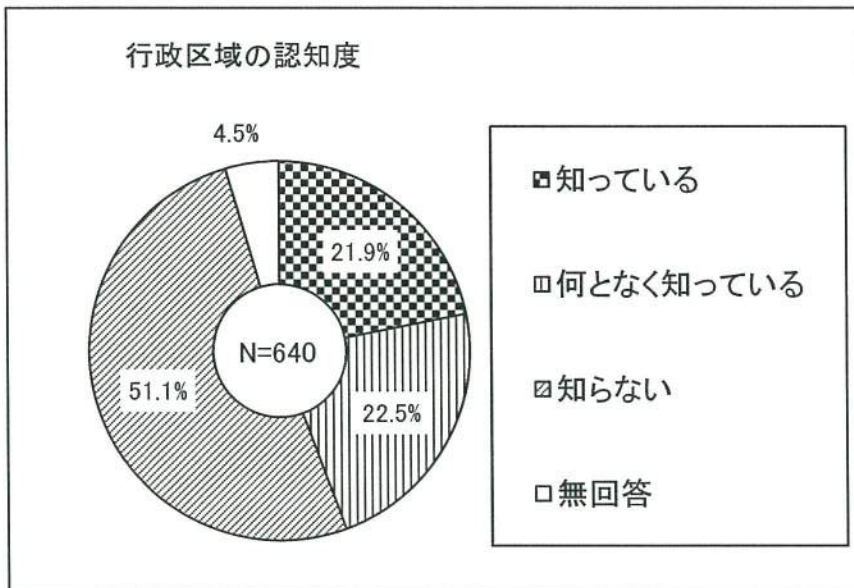
【6. 行政区域について】

問 23: 行政区域の認知度

平成26年4月からスタートした「行政区域」についての認知度についてみると、「知らない」との回答が51.1%で最も多く、次いで「何となく知っている」22.5%、「知っている」21.9%の順となっており、行政区域に関する認知度は約2割にとどまっている。

これらのことから、今後も行政区域に関する周知活動を行うことが必要であることが伺える。

行政区域の認知度	単位: 件、%	
	件	構成比
知っている	140	21.9%
何となく知っている	144	22.5%
知らない	327	51.1%
無回答	29	4.5%
合計	640	100.0%

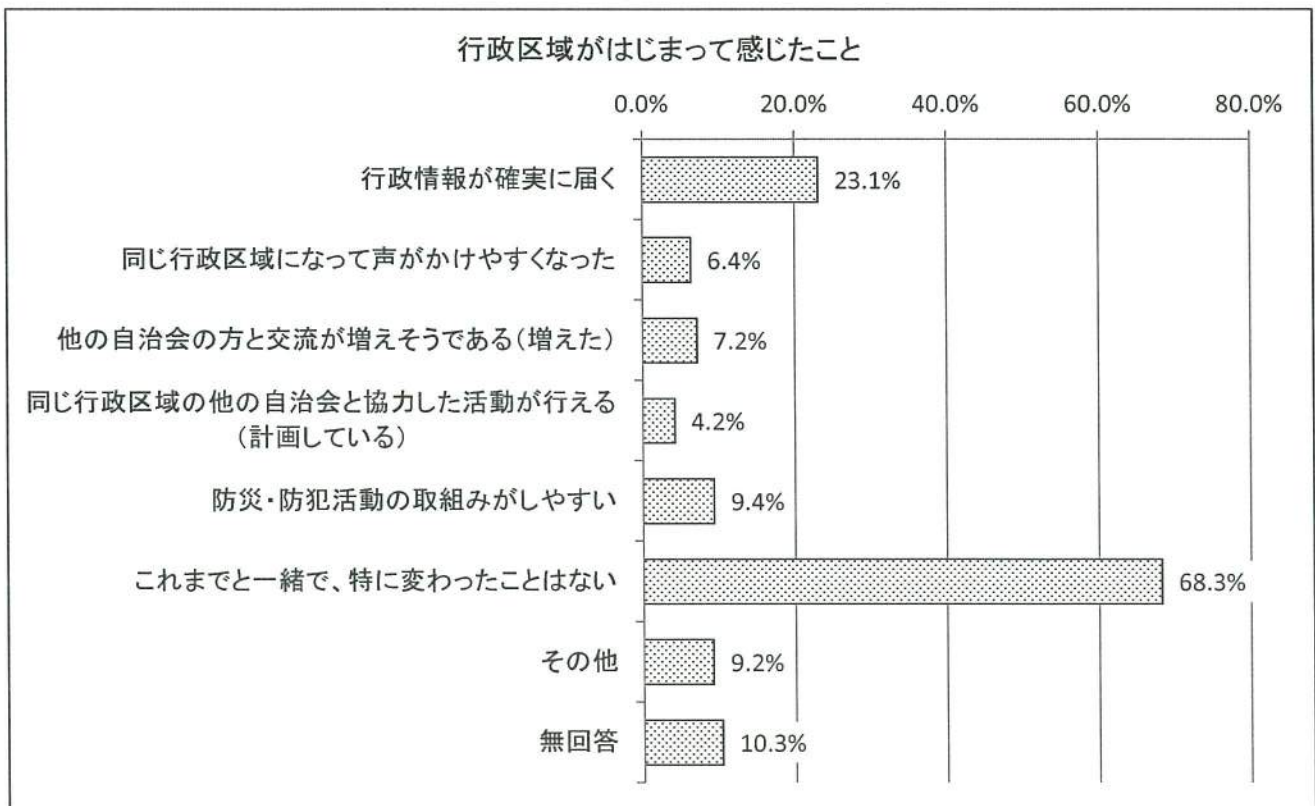


問 24：行政区域がはじまって感じたこと(複数回答)

行政区域がはじまって感じたことについては、「これまでと一緒に、特に変わったことはない」との回答が68.3%で最も多く、次いで「行政情報が確実に届く」23.1%となっており、それ以外の「防災・防犯活動の取組みがしやすい」「他の自治会の方と交流が増えそうである(増えた)」「同じ行政区域になって声がかかりやすくなった」「同じ行政区域の他の自治会と協力した活動が行える(計画している)」は10%未満である。

感じたこととして、「行政情報が確実に届く」と認識している方がいるものの、行政区域に関する認知度がまだ低いことから、行政区域の導入による変化を特に感じておらず、区域を活かした活動などについても、まだ認識が低い状況であることが伺える。

行政区域がはじまって感じたこと		単位:件、%	
	回答数	構成比	
行政情報が確実に届く	148	23.1%	
同じ行政区域になって声がかかりやすくなった	41	6.4%	
他の自治会の方と交流が増えそうである(増えた)	46	7.2%	
同じ行政区域の他の自治会と協力した活動が行える(計画している)	27	4.2%	
防災・防犯活動の取組みがしやすい	60	9.4%	
これまでと一緒に、特に変わったことはない	437	68.3%	
その他	59	9.2%	
無回答	66	10.3%	
回答計	884	138.1%	
回答者計	640	100.0%	



【自由意見について】

<自由意見の概要>

自由意見については、アンケート有効回答者 640 人のうち 136 人（21.3%）が意見を寄せている。

KJ法により大分類すると、概ね以下の6項目に大別される（基本的に個々の回答者の意見をそれぞれ一つの意見として分類。ただし、一人の回答者が明確に複数の意見を記述している場合は再分類。★については、今回のアンケート調査趣旨とは直接的にはやや異なることから「その他」として分類）。

■意見の大分類

1. 自治会の現状について
 2. 自治会の必要性について
 3. 自治会未加入について
 4. 新たな行政区域について
 5. 自治会の抱える課題解決に向けたあり方について
 6. 各種団体のあり方について
- ★個別・具体課題について
★その他

1. 自治会の現状について

- ①自治会に対する評価と期待
- ②自治会活動に対する不満と負担（区費、役の分担等）
- ③自治会活動に対する情報不足からくる意志疎通の欠如
- ④自治会への危機感
- ⑤読谷村に対する印象

- ・自治会の現状については、概ね上記の5つの細項目に関する意見がみられる。
- ・特に、「伝統文化や伝統行事等の継承」に代表される自治会活動に対する評価と期待が示されていることが目立つ。
- ・一方で、「区費・自治会費の負担感」あるいは「役職などの輪番による地域活動に対する重圧感」など、自治会活動に対する不満と負担を示す意見もみられる。
- ・加えて、「自治会が何をしているか不明」との意見にみられるに、自治会活動に対する情報不足からくる意志疎通の欠如を指摘する意見がみられる。
- ・また、「個人の自治会離れ、未加入世帯の増加」などから、将来の自治会活動の継続に不安を示す意見がある。

- ・読谷村全体の印象については、「独自の文化がある」あるいは「独特な地」、「各自治会の行事が多い」、「閉鎖的」など、肯定的な意見から否定的な意見まで幅広い意向がみられる。

2. 自治会の必要性について

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①新たな関係づくり ②安全・安心な地域環境づくり ③持続的な地域づくり |
|---|

- ・自治会の必要性については、概ね上記の3つの細項目に関する意見がみられる。
- ・個人では解決できない地域課題や子育て時期における近所づきあいの必要性など、自治会を通して得られる新たな横のつながりの重要性を指摘する意見がある。
- ・また、日頃の地域活動を通じたつながりが、防災・防犯、障害者・高齢者などに関わる「安全・安心な地域環境づくり」には重要であると指摘する意見がある。
- ・加えて、村全体の活性化のためにも、自治会活動の次世代への継続が重要であるとの指摘がある。

3. 自治会未加入について

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①転入時の加入アナウンスの有無 ②自治会に加入することが基本 ③自治会がどんな組織か知らないことの壁 ④区費・諸行事などの負担感に関わること ⑤現代社会と自治会活動とのズレ ⑥自治会に加入したくなる条件が整っていれば参加 ⑦未加入問題の狭間で起きていること |
|--|

- ・自治会未加入に関わる意向では、概ね上記の7つの細項目に関する意見がみられる。
- ・転入時の加入に関わるアナウンスの有無に対する意見がある一方、「地域に住んだら積極的に加入」することが基本であり、未加入者が増加することに対する不満を示す意見がみられる。
- ・前述したように、自治会活動に対する情報不足などから、活動実態や加入することのメリットがわからないことなど、村外から移り住んできた方には「加入に対する壁」を感じるとの意見もみられる。
- ・加えて、「分家しても自治会に加入しない、加入すると区費の負担、諸行事に参加しなければならない」の意見にみられるように、「区費・諸行事などの負担感に関わること」に対する意見が多く示されている。
- ・一方、「情報の氾濫、価値観の多様化、競争社会、進学体制の中で若者は地域社会生活

が不十分のまま成長し、成人しても自治会加入の必要性を感じない」との意見にみられるように、「現代社会と自治会活動とのズレ」を指摘する意見もある。

- ただし、未加入者の中には一律的な拒否ではなく、「活動が意義あるものだと思えることがあれば」や「子供に手がかからなくなった時」など、「自治会に加入したくなる条件が整っていれば参加」するとの意見もみられる。
- 現実問題としては、「子ども会における加入・未加入による子どもたちの扱い」や「運動会における場所の確保」など、諸行事での未加入問題が可視化されるなど、「未加入問題の狭間で起きている」事例を示す意見がある。

4. 新たな行政区域について

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①行政区域決定の認知度②行政区域で変わったこと、変わらなかったこと③行政区域に対する不満④行政区域改善の困難性とその背景の共有化⑤行政区域と自治会との関係づくり⑥行政区域間の関係づくり |
|---|

- 新たな行政区域については、概ね上記の7つの細項目に関する意見がみられる。
- まず、行政区域の決定過程、行政区域に関わる情報の確認窓口、字と行政区域のちがいなど、「行政区域決定」に関わる認知度を指摘する意見がある。
- 実施された行政区域に対する感想としては、「広報誌が的確に届く」、「字加入者にとってのメリットがあったのか」、「みんなが仲良くすることは良いことだが地域制の問題がある」など、行政区域で変わったこと、変わらなかったこと、疑問点など、幅広い意見がみられる。
- 一方、「未加入問題は、新行政区域でも解決せず」や「読谷の特徴である地域中心が行政区域で減んだ」など、明確に行政区域に対して否定的な意見もある。
- ただし、「戦後旧集落への戻れず他の行政区に住居を構える自治会の二分化の経緯」や「都市化に伴う未加入者の増加」など、読谷村が抱える行政区改善の困難性とその背景の共有化を指摘する意見もある。
- 今後の課題として、「字財政が厳しくなる中、行政区での自治会への加入促進」や「行政区と自治会は同じ区域で運営」など、新たな取組み促す意見がある。
- 加えて、「各行政区で何か一つでも行事をもち交流する」や「新たな行政区域にする意義や今後の進むべき方向性」など、行政区域間の関係づくりの必要性を指摘する意見がある。

5. 自治会の抱える課題解決に向けたあり方について

- | |
|------------------------|
| ①転居者との多様な交流の場づくり |
| ②他自治体における参考事例に学ぶ |
| ③情報提供の工夫とあり方 |
| ④誰もが安心して暮らせる仕組みづくり |
| ⑤誰もが気軽に訪れたいくなる雰囲気づくり |
| ⑥子ども・高齢者等を支えるシステムづくり |
| ⑦自治会加入促進に向けた行政の取組みのあり方 |
| ⑧自治会活動内容の再検討の必要性 |
| ⑨自治会加入促進に向けた取組みのあり方 |

- 自治会の抱える課題解決に向けたあり方については、最も多くの意見が寄せられ、概ね上記の9つの細項目に関する意見がみられる。
- 「地域コミュニティ＝自治会という図式から離れ、多種多様な雑多なモノが集まる地域コミュニティについても対応する」など、転居者との多様な交流の場づくりの重要性を指摘する意見がある。
- 加えて、「他自治体における参考事例に学ぶ」ことが必要だとの意見もある。
- 情報提供の工夫とあり方を指摘する意見では、「自治会活動の情報発信」の重要性から「ホームページ、読谷村役場とのリンク、メールマガジン」などの情報発信の手法など、多くの意見が寄せられている。
- 誰もが安心して暮らせる仕組みづくりでは、高齢者・障害者、防災・防犯など、「住民だけでなく、企業・社協、行政、学校、NPOといった読谷村の全ての団体・個人（ボランティア等）が共通認識をもつ」ことが指摘されている。具体的には「コーディネーター（CSWや福祉活動専門員、ボランティアコーディネーターなど）が中心となり、団体と住民、行政とのつながりをつくる」などが上げられている。
- そのためにも、「自治会に加入していない人も読谷村内に住んでいる人は、自由に地区の活動に参加出来たら良い」との「誰もが気軽に訪れたいくなる雰囲気づくり」の必要性を指摘する意見がみられる。
- また、「お年寄りや子ども達が気軽に入れる児童館があれば」などのハード面のみならず、「今は老人ですが現役の頃は夫々いろいろな分野で活躍していた。この力を地域の子どもの達に還元できたら」など、「子ども・高齢者等を支えるシステムづくり」に関わる意見も見られる。
- 一方、「村は積極的に自治会に加入する事を指導すべき」との意見にみられるように、「自治会加入促進に向けた行政の取組みのあり方」に言及する意見もある。
- 自治会に対しては、「行事のより充実した内容」や「若い人たちが多く参加できる組織」あるいは「班のあり方」など、「自治会活動内容の再検討の必要性」を指摘する意見もある。
- 「自治会加入促進に向けた取組みのあり方」では、「魅力ある自治会活動をする事」や「自

治会加入のメリット、セールスポイントをつくり、アピールする」などの意見をはじめ、「将来の加入率は子ども会の活動（思い出）がカギ」との子ども会の重要性を指摘する意見もある。

6. 各種団体のあり方について

- | |
|---------------------|
| ①老人クラブ
②婦人会・子ども会 |
|---------------------|

- 「老人クラブ」については、「行事の多さ」や「独居高齢者の居場所づくり」、「ゲートボールに関わる課題」、「未加入者の老人会への加入のあり方」など、幅広い意見がみられる。
- 「子ども会」や「婦人会」については意見の件数は少ないが、「子ども会の充実」を指摘する意見がある。「婦人会」については、「役員選出」に関する意見がみられる。
- 加えて、「子ども会」と「婦人会」については、「加入の方法やメリット」について、冊子等の配布を提案する意見がある。

